

管弦打楽器学科

1 年次生

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ミュージックセオリー I
担当講師名	高橋伸哉
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は作曲家として、管弦楽曲や吹奏楽曲、室内楽曲などの作編曲の経験を持ちます。

授業内容

楽典の基礎的な項目である音程や音階、調について学びます。
これらは、本科2年間で受講する様々な音楽理論系授業や、作編曲実習などで必要不可欠な知識です。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音程や音階、調の理解に加え、通常楽典では学ぶことがまれなコードネームの読み書きができるようになります。

授業計画（1回目から7回目）

- ①音部記号や、様々な音符、休符などの正しい書き方について学びます。
- ②音程の基礎となる、単音程の数え方について学びます。
- ③前週で学んだ単音程の数え方をもとに、音程の転回や複音程について学びます。
- ④前週までに学んだ音程の学習範囲について、練習問題の実施を通して理解を深めます。
- ⑤三和音と四和音のコードネームの読み方を学びます。
- ⑥次週の中間試験に向けて、練習問題を実施します。
- ⑦中間試験：音程とコードネームに関する筆記試験を実施します。

中間試験評価方法・評価基準

筆記試験を行います。
解答（楽譜）の書き方（正確さや見やすさ、丁寧さ）も採点の対象とします。
出席：20% 平常点：20% 試験：60%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧中間試験の答え合わせを行うほか、復習問題も実施します。

- ⑨6th や susu4, ディミニッシュなどのコードについて学びます。
- ⑩オンコードやテンションノートなどについて学びます。
- ⑪長音階と3種の短音階について学びます。
- ⑫長調, 短調すべての調の調号について学ぶほか、近親調について学びます。
- ⑬移調について学習し、実際に短い単旋律を様々な調に移調する練習問題を実施します。
- ⑭次週の期末試験に向けて、練習問題を実施します。
- ⑮期末試験：音階と調、調号、および移調に関する筆記試験を実施します。

期末試験評価方法・評価基準

筆記試験を行います。

解答（楽譜）の書き方（正確さや見やすさ、丁寧さ）も採点の対象とします。

出席：20% 平常点：20% 試験：60%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ミュージックセオリーⅡ
担当講師名	高橋伸哉
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は作曲家として、管弦楽曲や吹奏楽曲、室内楽曲などの作編曲の経験を持ちます。

授業内容

和声音楽の文法ともいえる、和声法の基礎的な範囲を学びます。四声体和声の分析力を身に付けることにより、本科2年で履修する「スコアリーディング」の授業にもスムーズに入っていけるでしょう。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

属7や属9の和音を含む、様々な長・短調の四声体和声の分析ができるようになります。

授業計画（1回目から7回目）

- ①和声法の学習を始めるにあたり、基礎的な用語について学びます。
- ②和声分析に必要不可欠な、和音記号と転回形のしくみについて学びます。
- ③和音が持つ様々な機能（はたらき）やカデンツについて学びます。
- ④ドミナントモーションのしくみについて学ぶほか、属7の和音について学びます。
- ⑤音楽の句読点である様々な終止について学びます。
- ⑥次週の中間試験に向けて、練習問題を実施します。
- ⑦中間試験：四声体和声分析の筆記試験を実施します。

中間試験評価方法・評価基準

筆記試験を行います。

分析記号類の書き方（正確さや見やすさ、丁寧さ）も採点の対象とします。

出席：20% 平常点：20% 試験：60%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧中間試験の答え合わせを行うほか、強進行と弱進行について学びます。

- ⑨Ⅱ7の和音について学びます。

- ⑩属7の根音省略形について学びます。
- ⑪属9の和音について学びます。
- ⑫様々な長調による四声体和声の分析を実施します。
- ⑬様々な短調による四声体和声の分析を実施し、短調特有の終止についても学びます。
- ⑭次週の期末試験に向けて、練習問題を実施します。
- ⑮期末試験：四声体和声分析の筆記試験を実施します。

期末試験評価方法・評価基準

筆記試験を行います。
分析記号類の書き方（正確さや見やすさ、丁寧さ）も採点の対象とします。
出席：20% 平常点：20% 試験：60%

特記事項

学科名	音楽総合アカデミー学科、管弦打楽器学科
科目名	ソルフェージュ I
担当講師名	宇都宮三花、栗原里沙、芳賀傑、藤本暁子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家、演奏家としての経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

授業内容

「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分が思う音と、実際に出ている音が一致しているかどうかが確認できるようになること。
同時に、「音」だけではなく、ダイナミクス、アーティキュレーション等も読み取り、感じ取ることができるようになること。

授業計画（1回目から7回目）

- ①視唱 & 聴音①：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ②視唱 & 聴音②：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ③視唱 & 聴音③：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ④視唱 & 聴音④：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑤視唱 & 聴音⑤：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑥試験：聴音試験
- ⑦試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

中間試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧視唱 & 聴音⑥：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑨視唱 & 聴音⑦：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑩視唱 & 聴音⑧：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑪視唱 & 聴音⑨：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑫視唱 & 聴音⑩：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑬視唱 & 聴音⑪：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑭試験：聴音試験
- ⑮試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

期末試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

このクラスはレベル別に4クラスに分かれています。
クラスによっては、上記の授業計画から少し外れてしまうこともありますが、その時は担当講師の指示に従ってください。

学科名	音楽総合アカデミー学科、管弦打楽器学科
科目名	ソルフェージュⅡ
担当講師名	宇都宮三花、栗原里沙、芳賀傑、藤本暁子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

作編曲家、演奏家としての経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

授業内容

「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分が思う音と、実際に出ている音が一致しているかどうかが確認できるようになること。

同時に、「音」だけではなく、ダイナミクス、アーティキュレーション等も読み取り、感じ取ることができるようになること。

授業計画（1回目から7回目）

- ①視唱 & 聴音⑫：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ②視唱 & 聴音⑬：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ③視唱 & 聴音⑭：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ④視唱 & 聴音⑮：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑤視唱 & 聴音⑯：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑥試験：聴音試験
- ⑦試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

中間試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧視唱 & 聴音⑯：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑨視唱 & 聴音⑰：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑩視唱 & 聴音⑱：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑪視唱 & 聴音⑲：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑫視唱 & 聴音⑳：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑬視唱 & 聴音㉑：新曲視唱、移調奏、リズム打ち、メロディー聴音
- ⑭試験：聴音試験
- ⑮試験 & 総括：聴音試験答え合わせ、視唱試験

期末試験評価方法・評価基準

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

このクラスはレベル別に4クラスに分かれています。
クラスによっては、上記の授業計画から少し外れてしまうこともありますが、その時は担当講師の指示に従ってください。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	専攻音楽史 I
担当講師名	芳賀傑
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当者は作曲家として管弦楽曲や吹奏楽曲、室内楽曲などの作編曲の経験を持ちます。

授業内容

西洋音楽史において重要な作曲家・作品を中心に取り上げ、それらの音楽的特徴・歴史的背景を学ぶ授業です。西洋音楽の歴史を形成する大きな流れを捉え、歴史や美術の知識、和声や形式、音構造などから多角的に音楽を勉強します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽曲と向き合う際にその楽曲がどの様な音楽的特徴を持ち、どの様な歴史的背景から影響を受けその楽曲となり得ているのかを判断しカテゴライズできる事を目標としています。和声や形式、音構造、ヨーロッパの歴史など多角的な視点を持てる様に指導します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス：年間の授業内容や到達目標、評価方法などの説明をします。
- ②西洋音楽の起源：音律や楽譜の起源について古代ギリシャ時代を中心に勉強します。
- ③中世の音楽 I：グレゴリオ聖歌からどの様に楽譜や音楽が発展していったのかを時代背景と共に勉強します。
- ④中世の音楽 II：オルガヌムの発生からノートルダム楽派までの多声音楽の推移を時代背景と共に勉強します。
- ⑤ルネサンス期の音楽 I：ブルゴーニュ楽派やフランドル楽派を中心に多声音楽の推移を勉強します。
- ⑥ルネサンス期の音楽 II：ガブリエリを中心に声楽音楽から器楽音楽への推移を時代と共に勉強します。
- ⑦試験：理解度の確認をする試験を実施します。

中間試験評価方法・評価基準

筆記試験、およびリスニング試験をおこないます。

授業で学んだ時代ごとの音楽を音楽的特徴、歴史的背景か判断握出来ているかを評価します。

試験：80% 平常点：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧バロック様式の音楽 I: バロック様式の時代背景や重要な音楽形式、概念などを勉強します。
- ⑨バロック様式の音楽 II: 「協奏曲」をテーマにヴィヴァルディ、バッハ、ヘンデルの作品を勉強します。
- ⑩古典派の音楽 I : 古典派の時代の時代背景や重要な音楽形式、編成などの概要を勉強します。
- ⑪古典派の音楽 II : 「交響曲の発生」をテーマにマンハイム楽派やハイドンの作品を時代背景と共に勉強します。。
- ⑫古典派の音楽 III : モーツアルトの作品が与えた歴史的意義を時代背景と共に勉強します。
- ⑬古典派の音楽 IV : ベートーヴェンの作品が与えた歴史的意義を時代背景と共に勉強します。
- ⑭これまでの復習 : 試験に向けて総括的な復習をします。
- ⑮試験: 春学期全体の理解度を確認する試験を実施します。

期末試験評価方法・評価基準

筆記試験、およびリスニング試験をおこないます。
春学期を通して学んだ時代全般の音楽を音楽的特徴、歴史的背景から判断し把握出来ているかを評価します。
試験：80% 平常点：20%

特記事項

授業内容や授業進度によっては理解の補助のための遠隔授業や課題提出等による授業を実施することがあります。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	専攻音楽史 II
担当講師名	芳賀傑
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

担当者は作曲家として管弦楽曲や吹奏楽曲、室内楽曲などの作編曲の経験を持ちます。

授業内容

西洋音楽史において重要な作曲家・作品を中心に取り上げ、それらの音楽的特徴・歴史的背景を学ぶ授業です。西洋音楽の歴史を形成する大きな流れを捉え、歴史や美術の知識、和声や形式、音構造などから多角的に音楽を勉強します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽曲と向き合う際にその楽曲がどの様な音楽的特徴を持ち、どの様な歴史的背景から影響を受けその楽曲となり得ているのかを判断しカテゴライズできる事を目標としています。和声や形式、音構造、ヨーロッパの歴史など多角的な視点を持てる様に指導します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ロマン派の音楽 I: 「ヴィルトゥゾ」という側面からショパン、リスト、パガニーニ等の作品を中心に前期ロマン派の音楽を勉強します。
- ②ロマン派の音楽 II: 「ファンタジー（幻想）」という側面からシューマン、シューベルト、ベルリオーズ等の作品を中心に前期ロマン派の音楽を勉強します。
- ③ロマン派の音楽 III: 「民族性」という側面からスマタナ、シベリウス、ドヴォルザークなどの国民楽派の作品を中心に後期ロマン派の音楽を勉強します。
- ④ロマン派の音楽 IV「ロシアの民族性」という側面からボロディン、リムスキーコルサコフなどロシア5人組の作品を中心に後期ロマン派の音楽を勉強します。
- ⑤ロマン派の音楽 VI: 「標題音楽」という側面からリストの交響詩やベルリオーズの標題音楽作品を中心にロマン派の音楽を勉強します。
- ⑥ロマン派の音楽 VII: 「絶対音楽」という側面からブルームス、チャイコフ斯基、ランクなどのロマン派交響曲作品を中心にロマン派の音楽を勉強します。
- ⑦試験：理解度の確認をする試験を実施します。

中間試験評価方法・評価基準

筆記試験、およびリスニング試験をおこないます。

授業で学んだ時代ごとの音楽を音楽的特徴、歴史的背景か判断握出来ているかを評価します。

試験：80% 平常点：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧近代・現代の音楽：「20世紀の音楽への導入」をテーマにドビュッシー、ワーグナーの作品を取り上げ、音楽の変化や時代背景を勉強します。
- ⑨近代・現代の音楽：「表現主義」をテーマにシェーンベルクをはじめとした新ウィーン楽派の作品を取り上げ、12音技法について時代背景と共に勉強します。
- ⑩近代・現代の音楽Ⅰ：「ジョン・ケージ」をテーマにジョン・ケージの起こした音楽美学やチャンスオペレーション、プリペアドピアノなどを勉強します。
- ⑪近代・現代の音楽Ⅱ：「アメリカの音楽」をテーマにライヒやアダムスなどのミニマル音楽、コーブランドやバーンスタインなどの作品を取り上げ、アメリカの音楽を勉強します。
- ⑫近代・現代の音楽Ⅲ：「原始主義」をテーマにバルトークなどの作品を取り上げ、時代背景と共に勉強します。
- ⑬近代・現代の音楽Ⅳ：「新古典主義」をテーマにストラヴィンスキーやフランス6人組などの作品を取り上げ、時代背景と共に勉強します。
- ⑭これまでの復習：通年を通して勉強したことの総括的な復習をします。
- ⑮試験：専攻音楽史I-IIの全範囲の理解度の確認をする試験を実施します。

期末試験評価方法・評価基準

筆記試験、およびリスニング試験をおこないます。
春学期を通して学んだ時代全般の音楽を音楽的特徴、歴史的背景から判断し把握出来ているかを評価します。
試験：80% 平常点：20%

特記事項

授業内容や授業進度によっては理解の補助のための遠隔授業や課題提出等による授業を実施することがあります。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅠ(フルート)
担当講師名	野崎和宏
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

担当講師は、ソロ、室内楽、オーケストラでの演奏と指導の実務経験があります。

授業内容

姿勢、呼吸法などの基本奏法、特に全音域の音質を見直し、デイリートレーニングの方法を学びながら基礎力の向上を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

2年間でフルート奏法の基礎練習法を学ぶこの授業の最初の学期は、楽器の発音原理と正しい呼吸法を理解して、姿勢、アンブッシュ、等を修正、全音域の音質を改善します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス：2年間の授業の流れを説明。音(音質、音量、音程)の概念
- ② 呼吸法、アンブッシュ、楽器の構え、姿勢、発音(シングル・タンギング)の見直し
- ③ 音作り(1)低音域
- ④ 音作り(2)ハーモニックス
- ⑤ 音作り(3)中、高温域
- ⑥ スケールとアルペッジョ(1)：8グレード課題アルテスⅡ巻頭
- ⑦ Iクオーター末試験(実技)

中間試験評価方法・評価基準

実技試験によってIクオーター授業内容の理解度を判定し、出席率と受講態度の平常点と合わせて評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 音作り(4)柔軟性：強弱、音色
- ⑨ なめらかな運指、半音階
- ⑩ 全音音階

- ⑪ 跳躍音形 Moyse : De la Sonorité No.1~12
- ⑫ スケール(2) : 7 グレード課題/Taffanel et Gaubert : E. J. 1, 2
- ⑬ アルペッジョ : 三和音 Taffanel et Gaubert : E. J. 10
- ⑭ レガートと各種のアーティキュレーション
- ⑮ II クオーター末試験 (実技)

期末試験評価方法・評価基準

実技試験によってII クオーター授業内容の理解度を判定し、出席率と受講態度の平常点と合わせて評価します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅠ（クラリネット）
担当講師名	円田剛明
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験がある。

授業内容

春・秋学期を通して、クラリネットの演奏を続けて行く為、また教える立場になった時為、クラリネットのしくみや奏法等の基礎知識の確認と習得をします。
日々のトレーニングの為にロングトーンや音階練習、アンプシュアや息の使い方の理解と習得を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

- ・クラリネットの構造と音の出るしくみの理解と確認。
- ・全長音階のスケール・アルペジオ・属7・減7を理解し、暗譜で演奏出来るようになる事。

授業計画（1回目から7回目）

- ① I・II クオーターの指針の説明。
- ② クラリネットの歴史・構造・仕組み知り、実際に音を出す、ロングトーン。
- ③ リードとマウスピースについての座学、及び半音また全音移動するロングトーン演習。
- ④ 譜表と各国語による音名の座学、及び長音階演習。
- ⑤ 長音階における音階と主和音の座学と長音階のスケール・アルペジオの実習。
- ⑥ 長音階における音階・主和音と属7の和音の座学、及び長音階のスケール・アルペジオ・属7アルペジオの実習。
- ⑦ 中間試験。全長調の音階の中からいくつかの調を演奏。

中間試験評価方法・評価基準

授業内容の理解度、習熟度を、出席率（60%）・平常点点（20%）・中間試験（20%）の配分で総合的に評価する。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 高音域の運指・アンプチュアを確認し、長音階の音域を広げる。
- ⑨ 前回の高音域を含めた広い音域を使った長音階のスケールとアルペジオの実習。
- ⑩ 高音域を含んだ広い音域を使った長音階のスケールとアルペジオオ、及び属7の実習。
- ⑪ 長音階においてのアルペジオ・属7・減7の和音の理解と実習。
- ⑫ 手や体で拍子を取りながら初見の楽譜を読む練習。音程は取れなくても良い。
- ⑬ 初めて見る楽譜をクラリネットを使って演奏する練習。
- ⑭ 春学期のまとめ。長音階のスケール・アルペジオ・属7・減7の実習、及び初見実習。
- ⑮ 期末試験。長音階のスケール・アルペジオ・属7・減7の演奏、及び初見演奏。

期末試験評価方法・評価基準

授業内容の理解度、習熟度を、出席率（60%）・平常点点（20%）・期末試験（20%）の配分で総合的に評価する。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅠ（オーボエ・ファゴット）
担当講師名	市原 満
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

木管五重奏団「アマデウス・クインテット」主宰、オーボエ奏者。オーケストラ、吹奏楽での演奏実務経験、また吹奏楽コンクール、アンサンブルコンテストの審査員を各地で務めている。

授業内容

楽譜に書かれていることから作曲家がどのように表現してほしいかを読み取り、個々の解釈と共にそれを伝えるために必要な読譜力と演奏技術の基礎を習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音楽表現の基礎である音階の仕組みを理解して、全調（長調、短調）を習得、演奏できるようにする。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス：年間授業計画の説明。楽器の構造、リードと発音の原理の解説。
- ② 基礎奏法(1)：呼吸法、アンブシュア（リードを加えるときの口の形）、姿勢等合理的な奏法について説明します。
- ③ 基礎奏法(2)：フィンガリングに合理的な指の形について説明します。
- ④ 基礎奏法(3)：ロングトーンの練習。音色作りと明瞭な発音の方法について説明します。
- ⑤ 音階の仕組み(1)：長音階の構造を解説。♯♭2つまでの長音階練習、音程の取り方のポイントも習得します。
- ⑥ 音階の仕組み(2)：旋律的短音階と和声的短音階の構造を解説。♯♭2つまでの短音階を練習、短音階の音程の取り方のポイントも習得します。
- ⑦ 確認試験：♯♭2つまでの長調と短調（旋律的、和声的）を個別に演奏する。基礎奏法と音階の習得度を確認します。

中間試験評価方法・評価基準

出席状況、授業への積極性、内容の理解度を総合的に評価します。

出席率 50%、平常点 20%、試験 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 平行調と同主調：平行調と同主調の仕組みについて説明します。♯♭2つまでの音階で実践します。
- ⑨ 音階(1)：♯♭3つの長短音階を習得します。これらの音階の合理的なフィンガリングを説明します。
- ⑩ 音階(2)：♯♭4つの長短音階を習得します。これらの音階の合理的なフィンガリングの説明をします。
- ⑪ 音階(3)：♯♭5つの長短音階を習得します。これらの音階の合理的なフィンガリングの説明をします。
- ⑫ 音階(4)：♯♭6つの長短音階を習得します。これらの音階の合理的なフィンガリングの説明をします。
- ⑬ 音階練習法(1)：音階を速く演奏するための練習方法を説明します。色々なリズムで音階を演奏してフィンガリング、指の動きの訓練をします。
- ⑭ 音階練習法(2)：音階を色々なアーティキュレーション使って練習、様々な表現に対応できるようにします。
- ⑮ 期末試験：全ての調の音階が習得できているかを個別に確認します。全調から指定された音階を平行調で演奏します（テンポ指定なし）。

期末試験評価方法・評価基準

出席状況、授業への積極性、内容の理解度を総合的に評価します。

出席率 50%、平常点 20%、試験 30%

特記事項

音楽表現の基礎である音階は春学期中に全調習得するようにしましょう。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅠ（サクソフォーン）
担当講師名	中村均一
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師はサクソフォーン奏者として国内外のオーケストラで活躍。ソリストとしてまた2年間に渡って培ったアルモサクソフォンカルテットのリーダーとしての経験を踏まえアンサンブル技術や編曲技法についても造詣が深い。

授業内容

音楽を正確に表現するための基礎的な演奏技術、それを聴き手に伝えるための表現力の基礎を簡単な曲を通して養う。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

基本的なテクニックを理論的に捉え、話し合い、取得しながら、個々の音樂的な考え方や練習方法を身につける。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス。授業内容の説明
- ② 「息」のトレーニング。 ロングトーンの精度をあげる方法と意味をとらえる
- ③ 「口」のトレーニング。 音程のコントロール法を取得する
- ④ 「舌」のトレーニング。 タンギングのコントロールを取得する
- ⑤ 「指」のトレーニング。 スケールベースの練習および音磨きの練習法
- ⑥ 「頸」のトレーニング。 ヴィブラートのコントロールを取得する
- ⑦ 基礎練習の実技試験

中間試験評価方法・評価基準

授業内容の理解度、授業・試験での演奏内容、出席、授業態度を総合的に評価。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ マルセル・ミュールによる（スケール）
- ⑨ オリジナルのCDを使った音感トレーニング

- ⑩ トレバーワイによる（テクニック初級）
- ⑪ タファネル・ゴーベールによるスケール
- ⑫ ライフェルトによるスケール
- ⑬ オリジナルテキストによるインターバルトレーニング
- ⑭ ロンデックスによる（技術練習）
- ⑮ 実技試験。1,2 クオーターの内容から実技試験

期末試験評価方法・評価基準

授業で取り上げたテキストの中から課題を出し正しくトレーニング出来るかを実技試験とする。

内容の理解度、授業・試験での演奏内容、出席、授業態度を総合的に評価。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅠ（ホルン）
担当講師名	伊勢久視
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はオーケストラ、室内楽、スタジオ録音などで演奏活動をしています。また、学校指導も10校ほどしており、楽器指導の実務経験もあります。

授業内容

ホルンの基本奏法を理解し、自身の演奏技術をレベルアップします。そして、楽曲演奏などに応用していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ホルンを演奏するための、基礎的な奏法を習得します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 春期の説明。身体の仕組み、マウスピース、アンブシュア、ブレスコントロール、シラブルを理解。個々のレベル確認。
- ② ホルンという楽器の仕組みを学ぶ。自然倍音列を理解。
- ③ ノンタンギングロングトーン、クレッシェンド、デクレッシェンドを理解。
- ④ スラー、タンギングを理解。
- ⑤ 音域を広げる（中低音域）1。
- ⑥ 音域を広げる（中低音域）2。
- ⑦ ①～⑥の復習。

中間試験評価方法・評価基準

オーケストラスタディ（授業でも使用予定）を実演し、その完成度で評価します。

出席：30% 平常点：30% 実技：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ①～⑥までを復習します。オーケストラスタディ、エチュードを使用し応用1。
- ⑨ オーケストラスタディ、エチュードを使用し応用2。
- ⑩ 音域を広げる（中高音域）1。
- ⑪ 音域を広げる（中高音域）2。
- ⑫ オーケストラスタディ、エチュードを用いて、①～⑪までの復習・応用1。
- ⑬ オーケストラスタディ、エチュードを用いて、①～⑪までの復習・応用2。
- ⑭ オーケストラスタディ、エチュードを用いて、①～⑪までの復習・応用3。
- ⑮ オーケストラスタディやエチュードを発表します。

期末試験評価方法・評価基準

オーケストラスタディやエチュードを実演します。その完成度で評価します。

出席：30% 平常点：30% 実技：40%

特記事項

オーケストラスタディやホルンアンサンブル楽曲は、低難易度の楽曲を使用予定です。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅠ（トランペット）
担当講師名	班目 加奈
学期	春
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経験

担当講師は、ソロ演奏活動を中心としアンサンブル、金管バンドでの演奏実務及び、トランペット、吹奏楽、金管バンド等の指導実務経験があります。

授業内容

音階の理論と実践トレーニング。ワークショップ方式で奏法の研究と確認を行う。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

長音階、和声短音階、旋律短音階を理解し演奏することが出来る。
※2オクターブまたは1オクターブ及びアルペジオ。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス（現状把握と目標：グレード8のスケール課題の確認）を行います。
- ②長音階理論を学びます。
- ③二分音符1オクターブでの長音階演習を行います。
- ④二分音符1オクターブでの長音階演習を行い、和声短音階理論を学びます。
- ⑤二分音符1オクターブでの長音階及び和声短音階演習を行います。
- ⑥二分音符1オクターブでの長音階及び和声短音階演習を行います。ロングトーンについて研究します。
- ⑦グレード8のスケール課題の確認とエチュード試験ガイダンスを行います。

中間試験評価方法・評価基準

1人ずつグレード8のスケール課題が出来ているかチェックします。

出席：80%、平常点：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧目標（旋律短音階とミドルグレードスケール課題）確認とI クオーターの復習を行います。

- ⑨旋律短音階理論を学び、二分音符1オクターブでの長音階及び和声短音階演習を行います。
- ⑩二分音符1オクターブでの長音階、和声及び旋律短音階演習を行います。
- ⑪2オクターブで長音階、1オクターブで和声及び旋律短音階演習を行います。
- ⑫2オクターブで長音階及び和声短音階、1オクターブで旋律短音階演習を行います。
- ⑬2オクターブで長音階及び和声短音階、1オクターブで旋律短音階演習を行います。タンギング、フィンガリングについて研究します。
- ⑭2オクターブで長音階及び和声短音階、1オクターブで旋律短音階演習を行います。タンギング、フィンガリングについて研究します。
- ⑮スケールテスト。

期末試験評価方法・評価基準

ミドルグレードスケール課題及び1オクターブの旋律短音階が習得出来ているか。

出席：50%、平常点：30%、スケールテスト：20%

特記事項

音階を書く作業も行いますので、五線紙を各自用意してください。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅠ（トロンボーン）
担当講師名	山口隼士
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験があります。

授業内容

- 1, 呼吸法の確認と習得
- 2, 楽典的知識の習得と演奏への応用
- 3, 基礎技術の確認、トレーニング方法の研究

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

スケールを理解し、自分のものにすることができるか。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス 顔合わせ、授業内容の説明
- ② 基礎技術1 C-dur、スラー
- ③ 基礎技術2 a-moll
- ④ 基礎技術3 F-dur、強弱
- ⑤ 基礎技術4 d-moll
- ⑥ 基礎技術5 G-dur、アルペジオ
- ⑦ まとめ 演奏試験

中間試験評価方法・評価基準

受講姿勢を重視しつつ、②～⑥のスケール確認。
出席 50% 平常点 30% 試験 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス 前回までの確認、授業内容の説明
- ⑨ 基礎技術6 e-moll
- ⑩ 基礎技術7 B-dur、シンコペーション

- ⑪ 基礎技術 8 g-moll
- ⑫ 基礎技術 9 D-dur 、リップスラー
- ⑬ 基礎技術 10 h-moll
- ⑭ 基礎技術 11 Es-dur、半音階
- ⑮ まとめ 演奏試験

期末試験評価方法・評価基準

受講姿勢を重視しつつ、⑨～⑯のスケール確認。
出席 50% 平常点 30% 試験 20%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅠ（ユーフォニアム・チューバ）
担当講師名	齋藤充
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

ユーフォニアム奏者・指導者として幅広い活動実績を持ち、本校では10年を超えてこの授業を担当しております。著書（単書）に加え、雑誌等への寄稿も多い。

授業内容

ユーフォニアム・チューバの基本奏法を学び、それをどのように音楽につなげるのかを習得する。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

基本テクニックであるロングトーン、タンギング、リップスラーを習得した上、スケールやアルペジオを通して正しい調性感を身につけ、それをエチュードやソロ曲にどのように応用するのかを学んでゆく。

授業計画（1回目から7回目）

- ① オリエンテーション、基本奏法の確認
- ② スケールの導入
- ③ エチュードを学ぶ
- ④ スケールの応用、長音階を中心に
- ⑤ エチュードのアナリーゼ
- ⑥ 長音階スケールのまとめ
- ⑦ エチュードの発表、まとめ

中間試験評価方法・評価基準

長音階（暗譜）とエチュードの演奏により評価する。
出席 20% 平常点 30% 試験 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ オリエンテーション、基本奏法の確認

- ⑨ 短音階の導入
- ⑩ ソロ曲を学ぶ
- ⑪ 短音階の応用
- ⑫ ソロ曲のアナリーゼ
- ⑬ 短音階のまとめ
- ⑭ ソロ曲の発表
- ⑮ 春楽器のまとめ

期末試験評価方法・評価基準

短音階（暗譜）とソロ曲の演奏により評価する。

出席 20% 平常点 30% 試験 50%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅠ（打楽器）
担当講師名	増田博之
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

担当講師は、打楽器アンサンブル、オペラ、ミュージカル、スタジオ録音等での実務経験を持つ。

授業内容

打楽器の基本として、スネアドラムとマリンバの奏法を習得します。

スネアドラム：1つ打ち、2つ打ち、ロール、アクセントの技術の他に、基礎リズムを演奏してリズムの取り方や感じ方を学びます。

マリンバ：正しい奏法を習得し、音階とアルペジオ、メロディー視奏を通じて読譜力を養います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

授業の目的を理解し、正しい奏法で演奏できる。

スネアドラム：1つ打ち、基礎リズムを正確に演奏できる。

マリンバ：音階とアルペジオを覚えて弾く。いろいろなメロディーを、楽譜を見ながら演奏できる。

授業計画（1回目から7回目）

- ① オリエンテーション
- ② 基礎リズム①、半音階
- ③ 1つ打ち、C-dur の音階、アルペジオ
- ④ 基礎リズム②、C-dur のメロディー視奏
- ⑤ アクセント、a - moll の音階、アルペジオ
- ⑥ 音名、a - moll のメロディー視奏
- ⑦ 試験

中間試験評価方法・評価基準

実技試験

バチやマレットの正しい持ち方、構え方、奏法を習得しているか。

左右の音量や音色のバランス、正確なリズム、ミスなくメロディーが演奏できる。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 2つ打ち、G-dur の音階、アルペジオ
- ⑨ 2つ打ちの加速と減速、G-dur のメロディー視奏
- ⑩ アクセントと組み合わせ、e - moll の音階、アルペジオ
- ⑪ アクセントと組み合わせ、e - moll のメロディー視奏
- ⑫ クローズド・ロール、F-dur の音階、アルペジオ
- ⑬ クローズド・ロール、F-dur のメロディー視奏
- ⑭ 練習曲、d-moll の音階、アルペジオ、メロディー視奏
- ⑮ 試験

期末試験評価方法・評価基準

実技試験

習得度（正しい奏法、音色やバランス、正確さ、テンポアップ）で評価します。

特記事項

試験は各クオーターで学習した内容より行います。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニング I(弦楽器)
担当講師名	小谷泉
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラでの演奏や指導などの実務経験があります

授業内容

この授業では色々な作品に使われている 弦楽器ならではの表現を基本的なものを大切に勉強していきます

春学期ではクラシック音楽の親しみやすい曲を使って表現を追求していきます

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

沢山の楽譜を見て素早く演奏でき さらに生き生きとしたアンサンブルが出来ることが到達目標です

授業計画（1回目から7回目）

- ① パッヘルベル カノンの演奏 まずは二長調の音階から始めます ゆっくり音を出しています
- ② パッヘルベル カノンの演奏 カノンの持っている曲の作りを奏法の変化をもとに作りあげます
- ③ パッヘルベル カノンの演奏 色々なテンポで演奏していきます
- ④ バッハ G線上のアリア 譜面が細かいので低音の8分音符の動きを基準に演奏します
- ⑤ バッハ G線上のアリア フィンガリングとスラーの付け方を大切にしてフレーズを演奏します
- ⑥ バッハ G線上のアリア 通奏低音の音をしっかりと聞けるバランスで演奏します
- ⑦ カノンとG線上のアリア 1人ずつ演奏でテストをします

中間試験評価方法・評価基準

パッヘルベルとバッハの大切なところをピックアップして1人1人の演奏を評価します
また平常確認も大切にします

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ モーツアルト アイネクライネナハトムジーク まずはト長調の音階から始めます
- ⑨ モーツアルト アイネクライネナハトムジーク 第一楽章を中心に演奏します
- ⑩ モーツアルト アイネクライネナハトムジーク 第一楽章を中心に後半から第二楽章へ
- ⑪ モーツアルト アイネクライネナハトムジーク 第二楽章 ハ長調の音階とメロディを中心
- ⑫ モーツアルト アイネクライネナハトムジーク 第二楽章 中間部 短調の部分をゆっくり練習します
- ⑬ アイネクライネ 第三楽章 メヌエットの基本的な弾き方から始めます
- ⑭ アイネクライネ 第三楽章のトリオの部分を練習します
- ⑮ アイネクライネ 1~3 楽章までをアンサンブルとしてまとめます

期末試験評価方法・評価基準

春学期後半からは ソロのみならず アンサンブル 普段の平常確認も大切に評価

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅡ（フルート）
担当講師名	野崎和宏
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

担当講師は、ソロ、室内楽、オーケストラでの演奏と指導の実務経験があります。

授業内容

春学期に続き、次の段階のデイリートレーニングの方法を項目ごとに留意点を明らかにしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ベーシックトレーニング全般、その基本形の理解。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 春学期内容の見直し、補充演習
- ② スケール(3) : 7 グレード課題 / Taffanel et Gaubert : E.J.3
- ③ アルペッジョ (3) : Taffanel et Gaubert : E.J.12
- ④ 跳躍音形(2) Moyse : De la Sonorité No. 13～24
- ⑤ 各種タンギング (ダブル、トリプル)
- ⑥ 各種タンギング (複合)
- ⑦ IIIクオーター末試験 (実技)

中間試験評価方法・評価基準

実技試験によってIIIクオーター授業内容の理解度を判定し、出席率と受講態度の平常点と合わせて評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ スケール(4) : 6 グレード課題 / Reichert op.5
- ⑨ アルペッジョ(4) Taffanel et Gaubert : E.J.14
- ⑩ 跳躍音形(3) Moyse : De la Sonorité No. 25～36

- ⑪ トリル / 第1オクターブ
- ⑫ トリル / 第2オクターブ
- ⑬ トリル / 第3オクターブ
- ⑭ トレモロ
- ⑮ 学年末試験

期末試験評価方法・評価基準

実技試験によってIVクォーター授業内容の理解度 1年間の授業内容の到達度を判定し、出席率と受講態度の平常点と合わせて評価します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅡ（クラリネット）
担当講師名	円田剛明
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験がある。

授業内容

春・秋学期を通して、クラリネットの演奏を続けて行く為、また教える立場になった時為、クラリネットのしくみや奏法等の基礎知識の確認と習得をします。
日々のトレーニングの為にロングトーンや音階練習、アンプシュアや息の使い方の理解と習得を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

- ・全長短調のスケール・アルペジオ・属7・減7を、楽譜を見ずに演奏する。
- ・自分に合った日々のトレーニングを確立する。

授業計画（1回目から7回目）

- ① III・IV クオーターの指針の説明。
- ② 和声短音階と旋律的短音階の成り立ちを確認・理解し、全短調の実習。
- ③ 短音階のスケール・アルペジオの理解と実習。
- ④ 短音階におけるスケール・アルペジオ、さらに属7・減7のアルペジオの理解と実習。
- ⑤ 平行調と同主調についての確認と理解。様々な順番でスケールを練習する。
- ⑥ 2 クオーターで行ったソルフェージュ・初見演奏の復習とさらに高度な課題に取り組む。
- ⑦ 中間試験。全短調の音階の中からいくつかの調を演奏。

中間試験評価方法・評価基準

授業内容の理解度、習熟度を、出席率（60%）・平常点点（20%）・中間試験（20%）の配分で総合的に評価する。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 発音や様々な音の長さを吹き分けるために必要なアンブシュアや舌について考え方理解を深める。
- ⑨ スケールやアルペジオに様々なアーティキュレーションを使って実習。
- ⑩ 3度・二重3度の実習とそれらを使って楽器を持つ手の形や動かす範囲・速さの理解と確認。
- ⑪ 3度以上離れた音を繋げて吹く時のアンブシュアや息の使い方の確認と実習。
- ⑫ クラリネット1本、またはクラリネットとピアノで演奏する時の基本的な考え方と実習。
- ⑬ 他の音を聞きながら演奏するアンサンブルの基本。タイミングや音量・音程の取り方などの実習。
- ⑭ 3人以上のクラリネット属によるアンサンブルの基本と考え方、及び実習。
- ⑮ 期末試験。3人以上のクラリネット属によるアンサンブルの発表。

期末試験評価方法・評価基準

授業内容の理解度、習熟度を、出席率（60%）・平常点（20%）・期末試験（20%）の配分で総合的に評価する。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅡ（オーボエ・ファゴット）
担当講師名	市原 満
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

木管五重奏団「アマデウス・クインテット」主宰、オーボエ奏者。オーケストラ、吹奏楽での演奏を経験、また吹奏楽コンクール、アンサンブルコンテストの審査員を各地で務めている。

授業内容

楽譜に書かれていることから作曲家がどのように演奏してほしいかを読み取り、個々の解釈と共にそれを伝えるために必要な毒浮力と演奏技術の基礎を習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音階全調をある程度の速いテンポでスムーズに演奏できるようにする。
時代様式に則ったアーティキュレーション、ダイナミクス、フレージング、装飾音の各表現方法を理解、実践できるようにする。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 楽典(1)：譜表と音名、音符と休符、拍子とリズムについて説明します。変拍子や色々な国の民族音楽のリズムについても解説します。
- ② 楽典(2)：テンポの表記、ダイナミクスの表記、表情の表記、奏法の表記について説明します。イタリア語を基本に、ドイツ語とフランス語の表記についても解説します。
- ③ 楽典(3)：装飾音とアーティキュレーションについて時代様式をふまえて説明します。時代別による表現の違いを解説します。
- ④ 楽典(4)：属調と下属調、転調の仕組みについて説明します。
- ⑤ 楽典(5)：和音の仕組みについて説明します。主和音（I）、IV、V、V7の各和音の性質を解説します。
- ⑥ 楽典(1)～(5)の実践：簡単な楽曲で学んだ楽典の知識を駆使して楽譜を読み、演奏してみます。
- ⑦ 確認試験：楽典の理解度を簡単な課題曲で確認します。楽譜上の表記や装飾音、またフレージングやアーティキュレーションについての質問をします。

中間試験評価方法・評価基準

出席状況、授業への積極性、内容の理解度を総合的に評価します。
出席率 50%、平常点 20%、試験 30%

授業計画（8回目から 15回目）

- ⑧ 高音域の運指：高音域のフィンガリング、アンブッシュ、息の使い方について説明します。（オーボエは第3オクターブキー、ファゴットはト音記号の音域）
- ⑨ 高音域の音階(1)：長音階で音域を広げる練習をします。フィンガリングと息の使い方のポイントを解説します。
- ⑩ 高音域の音階(2)：短音階で高音域につながる音階練習をします。フィンガリングのポイントを解説します。
- ⑪ 音階とアルペジオ(1)：音階とアルペジオを組み合わせて練習、I、IV、Vのアルペジオを習得します。
- ⑫ 属7と減7和音：属7和音、減7和音の説明をします。音階と属7、減7のアルペジオを組み合わせて実践します。
- ⑬ ソルフェージュ：拍子を取りながら楽譜を読む練習をします。また楽譜上に記された色々な情報を正確に読み取り表現する方法を習得します。初見演奏のコツとポイントも解説します。
- ⑭ アンサンブルの基本：AINザツ、タイミングの取り方、音程の合わせ方、音量バランスの取り方等、他の音を聴きながら演奏するアンサンブルの基本的な技術を説明、実践します。
- ⑮ 期末試験：簡単なアンサンブル曲（2～3重奏）を課題として演奏、1年間で学んだことの理解度を確認します。また楽曲の分析について質問します。

期末試験評価方法・評価基準

出席状況、授業への積極性、内容の理解度を総合的に評価します。
出席率 50%、平常点 20%、試験 30%

特記事項

音楽の基礎である最も重要な音階は必ず毎日練習しましょう！

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅡ(サクソフォーン)
担当講師名	中村均一
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師はサクソフォーン奏者として国内外のオーケストラで活躍。ソリストとしてまた2年間に渡って培ったアルモサクソフォンカルテットのリーダーとしての経験を踏まえアンサンブル技術や編曲技法についても造詣が深い。

授業内容

音楽を専門的に学ぶ者として、あくまでもフィーリングだけでなく論理的に自分や他の演奏を分析し、評論や指導が出来るように実際の管楽器講習会の指導を行うシミュレーションをしながらトレーニングをする。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

基本的なテクニックを理論的に捉え、話し合い、取得しながら、個々の音楽的な考え方や練習方法を身につける。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 春学期を振り返って、今後の課題の説明。それぞれの技術的な問題点を話し合う
- ② 一名ずつ講習会を想定した講師になり、他の学生を指導しながら論理的な指導法を模索。他の学生同士でもその内容を吟味する。
- ③ 「一名ずつ講習会を想定した講師になり、他の学生を指導しながら論理的な指導法を模索。他の学生同士でもその内容を吟味する。
- ④ 一名ずつ講習会を想定した講師になり、他の学生を指導しながら論理的な指導法を模索。他の学生同士でもその内容を吟味する。
- ⑤ 一名ずつ講習会を想定した講師になり、他の学生を指導しながら論理的な指導法を模索。他の学生同士でもその内容を吟味する。
- ⑥ 一名ずつ講習会を想定した講師になり、他の学生を指導しながら論理的な指導法

を模索。他の学生同士でもその内容を吟味する。

- ⑦ 一名ずつ講習会を想定した講師になり、他の学生を指導しながら論理的な指導法を模索。他の学生同士でもその内容を吟味する。

中間試験評価方法・評価基準

授業内で行われたシミュレーションの内容や、評論内容を総合的に評価する。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ アンサンブル楽曲を用いての演習（ユニゾン中心）
- ⑨ アンサンブル楽曲を用いての演習（音程中心）
- ⑩ アンサンブル楽曲を用いての演習（和音中心）
- ⑪ アンサンブル楽曲を用いての演習（リズム中心）
- ⑫ アンサンブル楽曲を用いての演習（ダイナミクス中心）
- ⑬ アンサンブル楽曲を用いての演習（アナリーゼ中心）
- ⑭ 1年を振り返って、基礎トレーニングの確認
- ⑮ 実技試験

期末試験評価方法・評価基準

授業内容の理解度、授業・試験での演奏内容、出席、授業態度を総合的に評価。

自分の演奏を客観的に分析して理論に照らし合わせてより良い音楽にするための方法を解説出来る様にしたい。

演奏試験60%、平常点、20%、出欠20%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅡ（ホルン）
担当講師名	伊勢久視
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はオーケストラ、室内楽、スタジオ録音などで演奏活動をしています。また、学校指導も10校ほどしており、楽器指導の実務経験もあります。

授業内容

ホルンの基本奏法を理解し、自身の演奏技術をレベルアップします。そして、楽曲演奏などに応用していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ホルンを演奏するための、基礎的な奏法を習得します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①秋期の説明。春期の復習1。
- ②春期の復習2。
- ③スケールを学ぶ1。
- ④スケールを学ぶ2。
- ⑤コラールを用いて、初見演奏・ハーモニー感覚を養う1。
- ⑥コラールを用いて、初見演奏・ハーモニー感覚を養う2。
- ⑦グループに分け、コラールを発表します。

中間試験評価方法・評価基準

コラールを実演し、その完成度で評価します。

出席：30% 平常点：30% 実技：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ①～⑥の復習。オーケストラスタディ、エチュード、ホルンアンサンブル楽曲を使用し応用1。
- ⑨ オーケストラスタディ、エチュード、ホルンアンサンブル楽曲を使用し応用2。
- ⑩ オーケストラスタディ、エチュード、ホルンアンサンブル楽曲を用いて、苦手な奏法を確認1。
- ⑪ オーケストラスタディ、エチュード、ホルンアンサンブル楽曲を用いて、苦手な奏法を確認2。
- ⑫ オーケストラスタディ、エチュード、ホルンアンサンブル楽曲を用いて、アンサンブル能力をアップ1。
- ⑬ オーケストラスタディ、エチュード、ホルンアンサンブル楽曲を用いて、アンサンブル能力をアップ2。
- ⑭ オーケストラスタディ、エチュード、ホルンアンサンブル楽曲を用いて、アンサンブル能力をアップ3。
- ⑮ グループに分け、オーケストラスタディやホルンアンサンブル楽曲を発表。

期末試験評価方法・評価基準

オーケストラスタディやアンサンブル楽曲を実演し、その完成度で評価します。

出席：30% 平常点：30% 実技：40%

特記事項

オーケストラスタディやホルンアンサンブル楽曲は、低難易度の楽曲を使用予定です。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニング II (トランペット)
担当講師名	班目 加奈
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

担当講師は、ソロ演奏活動を中心としアンサンブル、金管バンドなど演奏実務及び、トランペット、吹奏楽、金管バンド等の指導実務経験がある。

授業内容

音階練習を徹底します。初見演奏を通じて読譜と表現の基礎を学びます。メジャーな教本を理解し、基礎練習の様々なスタイルを経験しながら、全員で上達を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音階を習得します。初見演奏を含む、読譜力の向上をはかります。奏法を理解し、デイリートレーニングの確認を行い自分自身で向上できる力を養います。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンスと春学期授業内容（ミドルグレードスケール課題及び1オクターブの旋律短音階）の復習をします。
- ②2オクターブの長音階、和声及び旋律短音階の演習を行います。
- ③アーバン金管教本長音階、2オクターブの和声及び旋律短音階、バレ・トランペット教本を使用し初見視奏の演習を行います。拍子、リズムについて学びます。
- ④アーバン金管教本長音階、2オクターブの和声及び旋律短音階、バレ・トランペット教本を使用し初見視奏の演習を行います。拍子、リズムについて学びます。
- ⑤アーバン金管教本長音階、2オクターブの和声及び旋律短音階、長三和音、バレ・トランペット教本を使用し初見視奏の演習を行います。アーティキュレーションについて学びます。
- ⑥アーバン金管教本長音階、2オクターブの和声及び旋律短音階、長三和音と短三和音、バレ・トランペット教本を使用し初見視奏の演習を行います。アーティキュレーションについて学びます。
- ⑦アーバン金管教本長音階、2オクターブの和声及び旋律短音階のテストを行います。

中間試験評価方法・評価基準

2オクターブの長音階、和声及び旋律短音階を習得しているか。

出席：50%、平常点：30%、スケールテスト：20%

授業計画（8回目から15回目）

⑧Ⅲ クオーターの授業内容の復習を行います。

⑨アーバン金管教本短音階、長三和音と短三和音、バレ・トランペット教本を使用し初見視奏の演習を行います。表現方法、スラーについて学びます。

⑩アーバン金管教本短音階、長三和音と短三和音、バレ・トランペット教本を使用し初見視奏の演習を行います。表現方法、リップスラーについて学びます。

⑪バレ・トランペット教本を使用し初見視奏の演習を行います。表現方法、基礎練習全般について研究します。

⑫バレ・トランペット教本を使用し初見視奏の演習を行います。表現方法、基礎練習全般について研究します。

⑬バレ・トランペット教本を使用し初見視奏の演習を行います。表現方法、基礎練習全般について研究します。

⑭バレ・トランペット教本を使用し初見視奏の演習を行います。表現方法、基礎練習全般について研究します。

⑮1年のまとめ。

期末試験評価方法・評価基準

授業内でそれぞれの学習、習得度をチェックします。

出席：50%、平常点：50%

特記事項

教材はこちらから提供しますので、特に用意する必要はありません。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅡ（トロンボーン）
担当講師名	山口隼士
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験があります。

授業内容

- 1, 基礎技術の充実
- 2, 楽典的知識の演奏への応用
- 3, 音楽基礎能力の向上

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

スケールを理解し、自分のものにすることができるか。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス 授業内容の説明
- ② 基礎技術⑫ c-moll
- ③ 基礎技術⑬ A-dur、府点
- ④ 基礎技術⑭ fis-moll
- ⑤ 基礎技術⑮ As-dur、ダブルタンギング
- ⑥ 基礎技術⑯ f-moll
- ⑦ まとめ 演奏試験

中間試験評価方法・評価基準

受講姿勢を重視しつつ、②～⑥のスケール確認。
出席 50% 平常点 30% 試験 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス 前回までの確認、授業内容の説明
- ⑨ 基礎技術⑰ E-dur、トリプルタンギング
- ⑩ 基礎技術⑱ cis-moll

- ⑪ 基礎技術⑯ es-dur、b-moll
- ⑫ 基礎技術⑰ H-dur、gis-moll
- ⑬ 基礎技術⑱ Ges-dur、es-moll
- ⑭ 基礎技術⑲ Fis-dur、dis-moll
- ⑮ まとめ 演奏試験

期末試験評価方法・評価基準

受講姿勢を重視しつつ、⑯～⑲のスケール確認。
出席 50% 平常点 30% 試験 20%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニング II (ユーフォニアム・チューバ)
担当講師名	齋藤充
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

ユーフォニアム奏者・指導者として幅広い活動実績を持ち、本校では10年を超えてこの授業を担当しております。著書（単書）に加え、雑誌等への寄稿も多い。

授業内容

ユーフォニアム・チューバの基本奏法を学び、それをどのように音楽につなげるのかを習得する。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

基本テクニックであるロングトーン、タンギング、リップスラーを習得した上、スケールやアルペジオを通して正しい調性感を身につけ、それをエチュードやソロ曲にどのように応用をするのかを学んでゆく。

授業計画（1回目から7回目）

- ① オリエンテーション、基本奏法の確認
- ② 2オクターブのスケールを学ぶ
- ③ エチュードを学ぶ
- ④ 2オクターブのスケールの応用テクニック
- ⑤ エチュードのアナリーゼ
- ⑥ 2オクターブのスケールのまとめ
- ⑦ エチュードの発表、まとめ

中間試験評価方法・評価基準

2オクターブのスケール（暗譜）とエチュードの演奏により評価する。
出席 20% 平常点 30% 試験 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ オリエンテーション、基本奏法の確認

- ⑨ 様々なスケールパターンを学ぶ
- ⑩ ソロ曲を学ぶ
- ⑪ スケールとアルペジオの理解を深める
- ⑫ ソロ曲のアナリーゼ
- ⑬ 応用スケールパターンのまとめ
- ⑭ ソロ曲の発表
- ⑮ 秋学期のまとめ

期末試験評価方法・評価基準

アーバンやレミントンなどのスケールパターン（暗譜）とソロ曲の発表により評価する。

出席 20% 平常点 30% 試験 50%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅡ（打楽器）
担当講師名	増田博之
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

担当講師は、打楽器アンサンブル、オペラ、ミュージカル、スタジオ録音等での実務経験を持つ。

授業内容

打楽器の基本として、スネアドラムとマリンバの奏法を習得します。

スネアドラム：5～15打ち、ルーディメントを正確に学びます。

マリンバ：正しい奏法を習得し、音階とアルペジオ、メロディー視奏を通じて読譜力や楽典的な知識を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

授業の目的を理解し、正しい奏法で演奏できる。

スネアドラム：5～15打ち、ルーディメントを正確に演奏できる。

マリンバ：音階とアルペジオを覚えて弾く。いろいろなメロディーを楽譜を見ながら演奏できる。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 5つ打ち、D-durの音階、アルペジオ、メロディー視奏
- ② 7・9つ打ち、h-mollの音階、アルペジオ、メロディー視奏
- ③ 13・15打ち、B-durの音階、アルペジオ、メロディー視奏
- ④ 10・11打ち、g-mollの音階、アルペジオ、メロディー視奏
- ⑤ フラム、A-dur、fis-mollの音階、アルペジオ、メロディー視奏
- ⑥ パラディドル、Es-dur、c-mollの音階、アルペジオ、メロディー視奏
- ⑦ 試験

中間試験評価方法・評価基準

実技試験

左右の音量、音色、バランス、正確なリズム、強弱への対応。ミスなく演奏ができる。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ルーディメント
- ⑨ E - dur、cis - moll の音階、アルペジオ、メロディー観奏
- ⑩ ラフ、As - dur、f - moll の音階、アルペジオ、メロディー観奏
- ⑪ 練習曲、H - dur、gis - moll の音階、アルペジオ、メロディー観奏
- ⑫ 練習曲、Des - dur、b - moll の音階、アルペジオ、メロディー観奏
- ⑬ 練習曲、Ges - dur、es - moll の音階、アルペジオ、メロディー観奏
- ⑭ 秋学期のまとめ、復習
- ⑮ 試験

期末試験評価方法・評価基準

実技試験

左右の音色・音量・バランス、リズムの正確さ、強弱への対応、ミスのない演奏等を評価します。

特記事項

試験は各クオーターで学習した内容より行います。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ベーシックトレーニングⅡ(弦楽器)
担当講師名	小谷泉
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラでの演奏や指導などの実務経験があります

授業内容

秋学期の授業も個人の演奏はもとより他のパートの動きを
より理解した上での演奏が出来るようにアンサンブルを高めていきます

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

春学期からさらに 楽曲の楽譜に対応した演奏が目標です

授業計画（1回目から7回目）

- ① バッハ 主よ、人の望みの喜びよ の演奏 ト長調の音階練習から始めます
- ② バッハ 主よ、人の望みの喜びよ 三連符の弾き方に注意して演奏します
- ③ バッハ 主よ、人の望みの喜びよ ベースの動きをとらえながら アンサンブルしていきます
- ④ ポッケリーニ メヌエット イ長調の音階から始めます
- ⑤ ポッケリーニ メヌエット 装飾音の練習を中心に
- ⑥ ポッケリーニ メヌエット 内声パートを使った ピッチカートの練習をします
- ⑦ バッハ and ポッケリーニそれぞれのパートのテスト

中間試験評価方法・評価基準

それぞれの楽曲の大切なところをピックアップして
ソロ演奏と平常確認も大切に評価します

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ アンダーソン プリンク プランク プランク 多彩なピッチカート奏法の研究
- ⑨ アンダーソン プリンク プランク バルトークピッチカートや 楽器を叩く奏法も取り上げます

- ⑩ アンダーソン 舞踏会の美女 華やかなワルツの曲をよく響かせる練習をします
- ⑪ アンダーソン 舞踏会の美女 ベースの頭打ち 内声のあとうちの噛み合わせを練習します
- ⑫ アンダーソン 舞踏会の美女 メロディを美しく歌う練習をします
- ⑬ アンダーソン 舞踏会の美女 バスパートを生かした アンサンブルで演奏します
- ⑭ アンダーソン 二曲を続けて演奏して曲のキャラクターを弾きわけます
- ⑮ プリンク プランク 舞踏会の美女 それぞれの大変なところを取り上げテストします

期末試験評価方法・評価基準

冬学期は アンサンブルに重点をおきます
普段からの平常確認で良い演奏を心がけてよいチームワークにしたいです

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽 I (フルート)
担当講師名	野崎和宏
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

担当講師は、ソロ、室内楽、オーケストラでの演奏と指導の実務経験があります。

授業内容

管楽器奏者にとって必要不可欠なアンサンブル能力を養うため、本授業は先ず同族楽器同士での音程、テンポ、リズム、音量バランスを合わせる基本訓練に取り組みます。また、特殊楽器（ピッコロ、アルト、バス、コントラバス）の取り扱いを学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アンサンブルの最も基本的な問題と、特殊楽器基礎知識を身に付ける事を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 履修学生顔合わせ。インスペクター他の必要係選出。特殊楽器（ピッコロ、アルト、バス、コントラバス FL.）の取り扱い。
- ② 基本演習(1) : Fl. の音程の特徴と修正方法、ユニゾン、オクターブ音程、チューニングの訓練。
- ③ 基本演習(2) : コード進行の基礎課題 / J. S. Bach コラール等
- ④ 基本演習(3) : アインザッツ、テンポ、リズム基礎課題 / M. Schmitz
- ⑤ 模倣課題(1) : 古典、カノン、フーガの二重奏曲(Telemann 他)。バロック音楽の様式
- ⑥ 模倣課題(2) : Kanon-Karussell
- ⑦ I クオーター末試験（授業内発表）

中間試験評価方法・評価基準

アンサンブル基本課題、カノン二重奏曲の授業内発表の演奏によって、基本的な音程、テンポ感、リズム等のアンサンブル対応力を評価する。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ フルートアンサンブルの必修レパートリー演習(1)二重奏曲

- ⑨ フルートアンサンブルの必修レパートリー演習(2)二重奏曲
- ⑩ フルートアンサンブルの必修レパートリー演習(3)三重奏曲
- ⑪ フルートアンサンブルの必修レパートリー演習(4)三重奏曲
- ⑫ フルートアンサンブルの必修レパートリー演習(5)四重奏曲
- ⑬ フルートアンサンブルの必修レパートリー演習(6)四重奏曲
- ⑭ フルートアンサンブルの必修レパートリー演習(7)四重奏曲
- ⑮ II クオーター末試験（授業内発表）

期末試験評価方法・評価基準

II クオーター演習の2~4重奏曲の授業内発表によって、基本的なアンサンブル技術の到達度、授業出席率、積極的な授業参加態度などを総合的に評価します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅰ（クラリネット）
担当講師名	中村めぐみ
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラ、吹奏楽団、多数のクラリネットアンサンブルでの演奏や指導などの実務経験があります。また、特殊管の演奏経験にも実務経験があります。

授業内容

履修学生の人数に応じて、3重奏から8重奏、大編成などのクラリネットアンサンブルの曲を、読譜、困難なパッセージの個人練習時の工夫、基礎的な奏法の工夫、アンサンブルのクオリティーを高めるために必要なアンテナ、観察力の持ち方、ハーモニーを純化させるのに必要なクラリネット特有の音程、音質の傾向に対する理解と工夫へのアドバイスを伴いながら、レッスン形式で仕上げていきます。バロックから近代現代まで幅広くの楽曲を取り上げ、様式の勉強をすることで、アンサンブル能力も含め、個人のソロ、大編成の合奏などに臨む時にも役立つ経験を重ねていきます。

また、特殊管への経験を深める機会もつくり、各特殊管特有の操作上の工夫のアドバイスを行い、多くのシーンでの演奏の可能性を広げていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

授業内で経験したことを通じて、読譜力、基礎的奏法の向上、アンサンブルに必要なアンテナ、観察力、楽典ソルフェージュの実践を会得していき、複数の人数で一つの音楽を創る喜びを得ること、個々のソロの勉強や他の合奏授業への応用、アンサンブルが共同作業であるという認識の上で、社会人になることに向けて、自己開発、順応性などを身につけていくことを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス、編成、曲の模索、編成決定。
- ② レッスンを行います。
- ③ レッスンを行います。
- ④ レッスン、仕上がり具合をみて録音会、次の編成決定。
- ⑤ 録音を聴いてディスカッションしながらレッスンを行います。
- ⑥ レッスンを行います。
- ⑦ 疑似本番、

中間試験評価方法・評価基準

出席 10%、平常点 10%、実技成果 80%。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 編成、曲の決定、特殊管へのチャレンジも含む。
- ⑨ レッスン、
- ⑩ レッスン。ステージでの演奏を鑑みての編成、曲を再考決定。
- ⑧ レッスン。
- ⑨ レッスン。
- ⑩ レッスン、録音、ディスカッション。
- ⑪ レッスン、アンサンブルが複数の場合オーディション。
- ⑫ 仕上げ、疑似本番。

期末試験評価方法・評価基準

出席 10%、平常点 10%、実技成果 80%，

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅰ（木管五重奏）
担当講師名	多田 逸左久
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は、フリーランサーとして様々なジャンルで演奏・指導経験を積んでいます。室内楽の分野においては、とりわけ木管三重奏で、多くの本邦初演を含む実績があります。

授業内容

管楽器演奏家として、カヴァーしなければならないジャンルは多種多様ですが、その一つに木管五重奏が挙げられます。本講座では、数多の木管五重奏曲の中から、ベーシックかつエポックの異なる作品をセレクトして演習します。I・IIクオーターでは、主として19世紀終わり頃までの作品に取り組みますが、状況に応じて適宜入れ替える可能性もあります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

一年間の演習を通して、個々の演奏技能を磨きながらアンサンブル技法の基本を学修し、演習した作品を着実にレパートリーにすることを目標にします。
受講に当たっては、予習及び復習が求められます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス／一年間の授業指針を説明→ハイドン（1）／嬉遊曲 第1・2楽章
- ②ハイドン（2）／嬉遊曲 第3・4楽章
- ③ダンツィ（1）／木管五重奏曲 変ロ長調 第1楽章
- ④ダンツィ（2）／木管五重奏曲 変ロ長調 第2楽章
- ⑤ダンツィ（3）／木管五重奏曲 変ロ長調 第3楽章
- ⑥ダンツィ（4）／木管五重奏曲 変ロ長調 第4楽章
- ⑦Iクオーターの総括／授業内発表会

中間試験評価方法・評価基準

出席率（50%）・平常点（10%）・実技試験（40%）を目安に、総合的に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ライヒヤ（1）／ライヒヤ： 木管五重奏曲 変ホ長調 第1楽章
- ⑨ライヒヤ（2）／ライヒヤ： 木管五重奏曲 変ホ長調 第2楽章
- ⑩ライヒヤ（3）／ライヒヤ： 木管五重奏曲 変ホ長調 第3楽章
- ⑪ライヒヤ（4）／ライヒヤ： 木管五重奏曲 変ホ長調 第4楽章
- ⑫タファネル（1）／タファネル： 木管五重奏曲 I
- ⑬タファネル（2）／タファネル： 木管五重奏曲 II
- ⑭タファネル（3）／タファネル： 木管五重奏曲 III
- ⑮II クオーターの総括／授業内発表会

期末試験評価方法・評価基準

「継続は力なり！」
出席率を重視し、平常点（受講姿勢）と演習の実践への反映度を総合的に評価します。

特記事項

到達目標の項にも掲げた通り、予習・復習が重要です。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅰ（サクソフォーン）
担当講師名	中村均一
学期	春
授業の形態	演習/実
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師はサクソフォーン奏者として国内外のオーケストラで活躍。ソリストとしてまた2年間に渡って培ったアルモサクソフォンカルテットのリーダーとしての経験を踏まえアンサンブル技術や編曲技法についても造詣が深い。

授業内容

サクソフォーン四重奏を基本にレパートリーの拡充、練習法、アンサンブル技術、等を取得する。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

演奏家としてコンサートを開く能力を身に付けると共に指導者としてアンサンブルを指導できる様にする。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 練習の進め方をレクチャーします。
- ② 基礎的なアンサンブル力1ハーモニー。「カンツォーナ・ヴァリエ」（グラズノフ）テーマを使用してハーモニーのトレーニング法を取得する
- ③ 基礎的なアンサンブル力2対位法。「カンツォーナ・ヴァリエ」Var.1 を使用して対位法を理解する
- ④ 基礎的なアンサンブル力3声部の役割。「カンツォーナ・ヴァリエ」Var.2 を使用して声部毎の役割を理解する
- ⑤ 基礎的なアンサンブル力4装飾的な表現。「カンツォーナ・ヴァリエ」Var.4 を使用して装飾的な表現の仕組みをスコアから読み取って研究をする
- ⑥ 基礎的なアンサンブル力5テクニック。「カンツォーナ・ヴァリエ」Var.5 を使用してテクニカルなアンサンブル力を鍛える
- ⑦ 実技試験

中間試験評価方法・評価基準

実技試験。「グラズノフ作曲四重奏曲よりカンツォーナ・ヴァリエ」を演奏する。基礎的

なアンサンブルの能力と課題を確認する。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ オリジナル曲の小品（小品リストより）
- ⑨ オリジナル曲の小品（小品リストより）
- ⑩ バロック曲（小品リストより）
- ⑪ ピアノ曲（小品リストより）
- ⑫ 「小四重奏曲」（フランセ）（他選択可）
- ⑬ 「ルーマニア民族の主題による組曲」（J. アブシル）
- ⑭ 「四重奏曲」（ラクール）（他選択可）
- ⑮ 実技試験

期末試験評価方法・評価基準

演奏試験60%、平常点、20%、出欠20% リサイタルピースとして楽曲を取り上げ、選曲を含めて様々なジャンルの音楽に向き合い、表現と技術を鍛錬する。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽 I (ホルン)
担当講師名	下田太郎
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師はプロのオーケストラとホルンアンサンブル団体(ナチュラルホルンアンサンブル東京)で演奏や様々な団体の指導実務経験がある

授業内容

オーケストラや吹奏楽など、合奏の中での【ホルンセクション(パート)】も 2 人以上いる場合は【ホルンアンサンブル】として機能します。合奏内に於けるホルンの音のまとまりの重要性をアンサンブル楽曲で学び、セクション作りの基礎と応用を身に付けてもらいます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

アンサンブル楽曲の歴史や作曲された背景を研究・学習し、ホルンそのものの歴史を学び、レパートリーしていく事を目標・目的としています。

授業計画 (1回目から 7回目)

- ① ガイダンス
- ② 平易な二重奏と四重奏のアプローチ
- ③ 平易な二重奏と四重奏の演奏に取り組む
- ④ 狩りの楽器としてのホルンについて
- ⑤ 狩りの楽器としてのホルン音楽の発展 (その 2)
- ⑥ 室内楽作品として地位を得たホルンの作品
- ⑦ ホルントリオに触れる

中間試験評価方法・評価基準

授業内容の理解度、受講態度、出席状況、作品の読譜力、作品の分析力、リハーサルをまとめて行く力などにより評価します。出席 50% 平常点 20% 試験 30%

授業計画 (8回目から 15回目)

- ⑧ ウィーンの近代作品
- ⑨ ドイツの近代作品
- ⑩ ホミリウスの作品
- ⑪ ホミリウス全曲まとめ
- ⑫ ウィーンバルトホルン合奏団の歴史と作品
- ⑬ 1800 年代の二重奏の作品
- ⑭ 1800 年代の二重奏の作品
- ⑮ 春学期のまとめ

期末試験評価方法・評価基準

出席状況、授業の態度、作品の分析力、室内楽の演奏の完成に向けてのまとめかた、演奏力などから評価します。出席 50% 平常点 20% 試験 30%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅰ（トランペット）
担当講師名	班目 加奈
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

担当講師は、ソロ演奏活動を中心としアンサンブル、金管バンドなど演奏実務及び、トランペット、吹奏楽、金管バンド等の指導実務経験がある。

授業内容

音程と和音の理論を学習し、二重奏と四重奏の演習を行います。トランペットアンサンブルのレパートリー研究を行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音程と和音を理解し、二重奏と四重奏のコラールでそれらを認識しながら演奏できるようになります。アンサンブルの基礎を学び、基本的な技術を習得できます。トランペットアンサンブルのレパートリーを広げます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス
- ②音程の理論を学習します。ユニゾンを合わせる練習をします。
- ③和音の理論を学習します。完全音程と3度を合わせる練習をします。二重奏のグループ分けをします。
- ④完全音程、3度を合わせる練習をします。二重奏のレッスンを行います。
- ⑤完全音程、3度を合わせる練習をします。二重奏のレッスンを行います。
- ⑥完全音程、3度を合わせる練習をします。二重奏のレッスンを行います。
- ⑦二重奏の発表会を行います。

中間試験評価方法・評価基準

理論を理解し実践できているか。
出席：50%、平常点：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧完全音程、3度、三和音を合わせる練習をします。四重奏のグループ分けを行います。
- ⑨三和音を合わせる練習をします。四重奏の分析及びレッスンを行います。
- ⑩三和音を合わせる練習をします。四重奏の分析及びレッスンを行います。
- ⑪三和音を合わせる練習をします。四重奏の分析及びレッスンを行います。
- ⑫四重奏のレッスン及びレパートリー研究を行います。
- ⑬四重奏のレッスン及びレパートリー研究を行います。
- ⑭四重奏のレッスン及びレパートリー研究を行います。
- ⑮四重奏の発表会を行います。

期末試験評価方法・評価基準

理論を理解し実践できているか。積極的にアンサンブルに参加しているか。
出席：50%、平常点：50%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅰ（トロンボーン）
担当講師名	山口隼士
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験があります。

授業内容

楽譜に書かれた音楽を正確に表現するための演奏技術、それを聞き手に伝えるための表現力の基礎を養うと共に、ソロや合奏の基本となる、合わせるという技術についても学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽曲を理解し、十分表現ができるようになれるか

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス メンバー決め、選曲
- ② アナリーゼ 曲の分析
- ③ 曲の理解 全体像の把握
- ④ アンサンブルテクニック1 バランス・アーティキュレーション・ダイナミクス・ハーモニー感
- ⑤ アンサンブルテクニック2 音色・バランス・AINザツ・リズム感・テンポ感・フレージングの統一
- ⑥ 仕上げ
- ⑦ 発表 授業内発表

中間試験評価方法・評価基準

演奏を伴う授業あるため、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。
出席 50% 平常点 30% 発表 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス メンバー決め、選曲

- ⑨ アナリーゼ 曲の分析
- ⑩ 曲の理解 全体像の把握
- ⑪ アンサンブルテクニック 1 バランス・音程・アーティキュレーション・ダイナミクス・ハーモニー感
- ⑫ アンサンブルテクニック 2 バランス・音程・AINザツ・リズム感・テンポ感・フレージングの統一
- ⑬ 仕上げ
- ⑭ 仕上げ
- ⑮ 演奏会 演奏会形式による実技試験

期末試験評価方法・評価基準

演奏を伴う授業あるため、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。
出席 50% 平常点 30% 発表 20%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅰ（ユーフォニアム・テューバ）
担当講師名	齋藤充
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

ユーフォニアム奏者・指導者として幅広い活動実績を持ち、本校では10年を超えてこの授業を担当しております。著書（単書）に加え、雑誌等への寄稿も多い。

授業内容

ユーフォニアム・テューバを通して様々な時代と様式、編成の室内楽曲を学んでゆく。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

デュエットから大編成まで、そしてバロックから現代の作品を、ユーフォニアム・テューバで触れてゆく。演奏技術の向上だけでなく、ユーフォニアム・テューバの室内楽曲を通して楽曲分析や音楽史の知識も高めてゆく。

授業計画（1回目から7回目）

- ① オリエンテーション、初見演奏
- ② デュエットを学ぶ
- ③ デュエットの理解を深める
- ④ デュエットのまとめ
- ⑤ トリオの導入
- ⑥ トリオの理解を深める
- ⑦ トリオのまとめ

中間試験評価方法・評価基準

デュエットとトリオの演奏、初見演奏能力をチェックする。

出席 20% 平常点 30% 試験 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ オリエンテーション、初見演奏
- ⑨ カルテットの導入、合唱曲を用いて

- ⑩ 合唱曲の理解を深める
- ⑪ 合唱曲のまとめ
- ⑫ カルテットの応用、バロック作品を用いて
- ⑬ バロック作品の理解を深める
- ⑭ バロック作品のまとめ
- ⑮ 授業内発表会

期末試験評価方法・評価基準

デュエット、トリオ、カルテット、そして初見演奏能力をチェックする。

出席 20% 平常点 30% 試験 50%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽 I (金管五重奏)
担当講師名	若林 育
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

プロのオーケストラの室内楽に多数参加。

授業内容

本室内楽クラスでは、金管五重奏の形式でアンサンブルの重要性を学びます。主にベーシックな楽曲を取り上げハーモニー、フレーズ、音色感の扱い方を理解し、独奏曲やオーケストラ、吹奏楽を含む様々な形態の室内楽に対応できる知識、感覚を身につけます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

室内楽でそれぞれが担う役割をよく理解し有機的に楽曲を構成する様々なスキルを習得。

授業計画 (1回目から 7回目)

- ① ガイダンス
- ② 室内楽基礎 1 シンプルなコラール等を用いて室内楽の基盤を作る。
- ③ 室内楽基礎 2
- ④ 室内楽基礎 3
- ⑤ 室内楽基礎・楽曲 1 基礎 1～3 を基に発展。
- ⑥ 室内楽基礎・楽曲 2
- ⑦ 授業内発表 クオーター末試験

中間試験評価方法・評価基準

出席：60% 平常点：30% 試験：10%

授業計画 (8回目から 15回目)

- ⑧ ガイダンス
- ⑨ 楽曲演習・構成 1 前クオーターを基に室内楽の練度を上げ、楽曲の構成を学ぶ。

- ⑩ 楽曲演習・構成 2
- ⑪ 楽曲演習・構成 3
- ⑫ 楽曲演習・構成 4
- ⑬ 楽曲演習・構成 5
- ⑭ 楽曲演習・構成 6
- ⑮ 授業内発表 学期末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席：60% 平常点：30% 試験：10%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅰ（打楽器）
担当講師名	増田博之
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

担当講師は、打楽器アンサンブル、オペラ、ミュージカル、スタジオ録音等での実務経験を持つ。

授業内容

打楽器アンサンブルで大切なセッティング。演奏上での合図の出し方・受け方、バチの動作（AINザツ）などの基本を学び、様々な打楽器によるアンサンブルを体験します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽器の特質から来る音量バランス、メロディーと伴奏のバランス、タテの線が合うなど、完成度の高いアンサンブルを作る事が目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 授業の説明。各曲の乗り番発表、楽譜準備、目標の確認。
- ② オリジナル作品の練習。スコアの確認①
- ③ オリジナル作品の練習。スコアの確認②
- ④ オリジナル作品の練習。スコアの確認③
- ⑤ オリジナル作品の練習。スコアの確認④
- ⑥ 試験へ向けての通しリハーサル、セッティングの確認。
- ⑦ 試験。（コンサート形式での公開テスト）

中間試験評価方法・評価基準

実技試験。
演奏の完成度 80%。セッティング、MC 等 20%。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 授業の説明。各曲の乗り番発表、楽譜準備、目標の確認。
- ⑨ オリジナル作品の練習。スコアの確認①

- ⑩ オリジナル作品の練習。スコアの確認②
 - ⑪ オリジナル作品の練習。スコアの確認③
 - ⑫ オリジナル作品の練習。スコアの確認④
 - ⑬ オリジナル作品の練習。スコアの確認⑤
 - ⑭ オリジナル作品の練習。スコアの確認⑥
- 試験へ向けての通しリハーサル、セッティング確認。
- ⑮ 試験。（コンサート形式での公開テスト）

期末試験評価方法・評価基準

実技試験。演奏の完成度 80%。セッティング、MC 等 20%。

特記事項

アンサンブル授業の為、欠席が多い場合は乗り番を変更する事があります。尚、4 クオーターの試験は秋学期で取り上げた楽曲の中から曲数を増やして行なう場合があります。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅱ（フルート）
担当講師名	野崎和宏
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

担当講師は、ソロ、室内楽、オーケストラでの演奏と指導の実務経験があります。

授業内容

春学期で学んだアンサンブルの基礎訓練を基に主に小編成楽曲の演習を通じて、オリジナル必修レパートリーに取り組みます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

小、中編成レパートリーを拡げ、特殊楽器の熟達、指揮付の大編成の演奏も体験します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 小編成アンサンブルレパートリー1 / 3～5重奏曲
- ② 小編成アンサンブルレパートリー2 / 3～5重奏曲
- ③ 小編成アンサンブルレパートリー3 / 3～5重奏曲
- ④ 中編成アンサンブルレパートリー1 / 5～7重奏曲
- ⑤ 中編成アンサンブルレパートリー2 / 3～5重奏曲
- ⑥ 中編成アンサンブルレパートリー3 / 3～5重奏曲
- ⑦ IIIクオーター末試験 / 授業内発表形式

中間試験評価方法・評価基準

授業内容の理解度、アンサンブル演奏技術の到達度、授業態度、積極性などを総合的に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 指揮付の演奏
- ⑨ 大編成楽曲1
- ⑩ 大編成楽曲2
- ⑪ 大編成楽曲3

- ⑫ 大編成楽曲 4
- ⑬ 大編成楽曲 5
- ⑭ 大編成楽曲 6
- ⑮ 学年末試験

期末試験評価方法・評価基準

授業内容の理解度、特殊楽器の演奏能力、アンサンブル技術、授業出席率を総合的に評価します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅱ（クラリネット）
担当講師名	中村めぐみ
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラ、吹奏楽団、多数のクラリネットアンサンブルでの演奏や指導などの実務経験があります。また、特殊管の演奏経験にも実務経験があります。

授業内容

履修学生の人数に応じて、3重奏から8重奏、大編成などのクラリネットアンサンブルの曲を、読譜、困難なパッセージの個人練習時の工夫、基礎的な奏法の工夫、アンサンブルのクオリティーを高めるために必要なアンテナ、観察力の持ち方、ハーモニーを純化させるのに必要なクラリネット特有の音程、音質の傾向に対する理解と工夫へのアドバイスを伴いながら、レッスン形式で仕上げていきます。バロックから近代現代まで幅広くの楽曲を取り上げ、様式の勉強をすることで、アンサンブル能力も含め、個人のソロ、大編成の合奏などに臨む時にも役立つ経験を重ねていきます。
また、特殊管への経験を深める機会もつくり、各特殊管特有の操作上の工夫のアドバイスを行い、多くのシーンでの演奏の可能性を広げていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

授業内で経験したことを通じて、読譜力、基礎的奏法の向上、アンサンブルに必要なアンテナ、観察力、楽典ソルフェージュの実践を会得していき、複数の人数で一つの音楽を創る喜びを得ること、個々のソロの勉強や他の合奏授業への応用、アンサンブルが共同作業であるという認識の上で、社会人になることに向けて、自己開発、順応性などを身につけていくことを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス、編成、曲の模索、編成決定。
- ② レッスンを行います。
- ③ レッスンを行います。
- ④ レッスン、仕上がり具合をみて録音会、次の編成決定。
- ⑤ 録音を聴いてディスカッション。レッスンを行います。
- ⑥ レッスンを行います。
- ⑦ 疑似本番、

中間試験評価方法・評価基準

出席 10%、平常点 10%、実技成果 80%。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 編成、曲の決定、特殊管へのチャレンジも含む。
- ⑨ レッスン、
- ⑩ レッスン。ステージでの演奏を鑑みての編成、曲を再考決定。
- ⑧ レッスン。
- ⑨ レッスン。
- ⑩ レッスン、録音、ディスカッション。
- ⑪ レッスン、アンサンブルが複数の場合オーディション。
- ⑫ 仕上げ、疑似本番。

期末試験評価方法・評価基準

出席 10%、平常点 10%、実技成果 80%，

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅱ（木管五重奏）
担当講師名	多田 逸左久
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は、フリーランサーとして様々なジャンルで演奏・指導経験を積んでいます。室内楽の分野においては、とりわけ木管三重奏で、多くの本邦初演を含む実績があります。

授業内容

管楽器演奏家として、カヴァーしなければならないジャンルは多種多様ですが、その一つに木管五重奏が挙げられます。本講座では、数多の木管五重奏曲の中から、ベーシックかつエポックの異なる作品をセレクトして演習します。Ⅲ・Ⅳクオーターでは、主として近代以降の作品に取り組みますが、状況に応じて適宜入れ替える可能性もあります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

一年間の演習を通して、個々の演奏技能を磨きながらアンサンブル技法の基本を学修し、演習した作品を着実にレパートリーにすることを目標にします。
受講に当たっては、予習及び復習が求められます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ミヨー（1）／ルネ王の暖炉 I・II
- ②ミヨー（2）／ルネ王の暖炉 III・IV・V
- ③ミヨー（3）／ルネ王の暖炉 VI・VII
- ④イベール（1）／三つの小品 I
- ⑤イベール（2）／三つの小品 II
- ⑥イベール（3）／三つの小品 III
- ⑦I クオーターの総括／授業内発表会

中間試験評価方法・評価基準

出席率（50%）・平常点（10%）・実技試験（40%）を目安に、総合的に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧セルヴァンスキー（1）／木管五重奏曲 I
- ⑨セルヴァンスキー（2）／木管五重奏曲 II
- ⑩セルヴァンスキー（3）／木管五重奏曲 III
- ⑪ヒンデミット（1）／ヒンデミット： 小室内楽曲 I
- ⑫ヒンデミット（1）／ヒンデミット： 小室内楽曲 II・III
- ⑬ヒンデミット（1）／ヒンデミット： 小室内楽曲 IV
- ⑭ヒンデミット（1）／ヒンデミット： 小室内楽曲 V
- ⑮一年間の総括／室内楽発表会（バリオホール）

期末試験評価方法・評価基準

「継続は力なり！」
出席率を重視し、平常点（受講姿勢）と演習の実践への反映度を総合的に評価します。

特記事項

到達目標の項にも掲げた通り、予習・復習が重要です。
バリオホールでの室内楽発表会では、原則として受講者全員で演奏します。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅱ（サクソフォーン）
担当講師名	中村均一
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師はサクソフォーン奏者として国内外のオーケストラで活躍。ソリストとしてまた2年間に渡って培ったアルモサクソフォンカルテットのリーダーとしての経験を踏まえアンサンブル技術や編曲技法についても造詣が深い。

授業内容

更なるレパートリーの拡大を目指す。それと平行してリサイタルを仮定したプログラムをグループ毎に作成。コンサートのコンセプトも考えて演奏スタイルを研究する。バロックから現代まで幅広く選ぶこと。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

バロックから現代まで幅広く時代毎の音楽スタイルを理解し、またオリジナル曲だけでなくピアノ曲、弦楽、などアレンジ曲により音楽と向き合う姿勢を身につける。

授業計画（1回目から7回目）

- ① リサイタルピース、バロック曲。「サバの女王の入場」（ヘンデル）（他選択可）
- ② 同、ピアノ曲。「樂興の時」（シューベルト）（他選択可）
- ③ 同、弦楽器曲1。「弦楽四重奏曲アメリカ」（ドヴォルザーク）（他選択可）
 - I、II
- ④ 同、弦楽器曲2。「弦楽四重奏曲アメリカ」（ドヴォルザーク）（他選択可）
 - III、IV
- ⑤ 同、現代1。「グラーヴェとプレスト」（リヴィエ）（他選択可）
 - グラーヴェ
- ⑥ 同、現代2。「グラーヴェとプレスト」（リヴィエ）（他選択可）
 - プレスト
- ⑦ 実技試験

中間試験評価方法・評価基準

グループ毎にリサイタル1回分の演奏について評価。選曲やステージマナー、テーマの持

ち方や曲目解説も含めて評価する。
演奏試験 60%、平常点、20%、出欠 20%

授業計画（8回目から 15回目）

- ⑧ オーディションピース 1。 「四重奏曲」 （A. デザンクロ）（他選択可）
1 楽章、テーマを捉える、曲の仕組みを理解する。
- ⑨ オーディションピース 2。 「四重奏曲」 （A. デザンクロ）（他選択可）
1 楽章、テンポとダイナミクスの効果を理解する。
- ⑩ オーディションピース 3。 「四重奏曲」 （A. デザンクロ）（他選択可）
2 楽章、響きのブレンドとレガート
- ⑪ ピアノ曲（小品リストより）
- ⑫ オーディションピース 4。 「四重奏曲」 （A. デザンクロ）（他選択可）
2 楽章、緩徐楽章の演奏スタイルを捉える。
- ⑬ オーディションピース 5。 「四重奏曲」 （A. デザンクロ）（他選択可）
3 楽章、フィナーレにふさわしいテクニックを鍛える。
- ⑭ オーディションピース 6。 「四重奏曲」 （A. デザンクロ）（他選択可）
3 楽章、更にテンポを上げ、完成度を上げる。
- ⑮ 実技試験

期末試験評価方法・評価基準

オーディションを想定して実技試験。
コンクールで演奏されるような難易度の高い曲の完成度をあげ、優れた演奏とは何かを探る。
演奏試験 60%、平常点、20%、出欠 20%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅱ（ホルン）
担当講師名	下田太郎
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師はプロのオーケストラとホルンアンサンブル団体(ナチュラルホルンアンサンブル東京)で演奏や様々な団体の指導実務経験がある

授業内容

オーケストラや吹奏楽など、合奏の中での【ホルンセクション(パート)】も2人以上いる場合は【ホルンアンサンブル】として機能します。合奏内に於けるホルンの音のまとまりの重要性をアンサンブル楽曲で学び、セクション作りの基礎と応用を身に付けてもらいます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アンサンブル楽曲の歴史や作曲された背景を研究・学習し、ホルンそのものの歴史を学び、レパートリーにして行く事を目標・目的としています。

授業計画（1回目から7回目）

- ① フランス近代の代表的な作品（その1）
- ② フランス近代の代表的な作品（その1）
- ③ フランス近代の代表的な作品（その1）
- ④ フランス近代の代表的な作品（その1）
- ⑤ フランス近代の代表的な作品（その1）
- ⑥ E.ボザの演奏のまとめ
- ⑦ E.ボザのカルテットの試演

中間試験評価方法・評価基準

作品に対する個人としての楽曲に対するパートに対しての理解力、フレージングの理解、和声的な動きに対する理解度、音量バランスの理解、アンサンブル力、読譜力の出席率、授業の受講態度などを加味して採点します。出席 50% 平常点 20% 試験 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ H. ユーリセンの作品（その1）
- ⑨ H. ユーリセンの作品（その2）
- ⑩ T. ディッカウの作品（その1）
- ⑪ T. ディッカウの作品（その2）
- ⑫ T. ディッカウの作品（その3）
- ⑬ E. ザイフリートの作品（その1）
- ⑭ E. ザイフリートの作品（その2）
- ⑮ 新曲をその場でリハーサルして組み立て

期末試験評価方法・評価基準

個々のパートに対する譜読力、曲全体における役割の把握、和声的合わせる力、バランスの力、アンサンブルをリードする力などと共に日頃の受講態度、出席状況を加味して採点します。出席 50% 平常点 20% 試験 30%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅱ（トランペット）
担当講師名	班目 加奈
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

担当講師は、ソロ演奏活動を中心としアンサンブル、金管バンドなど演奏実務及び、トランペット、吹奏楽、金管バンド等の指導実務経験がある。

授業内容

二重奏から大編成のトランペットアンサンブルの演習を行います。トランペットアンサンブルのレパートリーを学習します。

※シンプソン：ソナチネ、ブラント：カントリーピクチャーズ等

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽曲を分析できます。アンサンブルの基本的な技術を習得し、自分たちで練習方法を考え上達できます。客観的に演奏を聞くことが出来るようになります。トランペットアンサンブルのレパートリーを広げます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス及びチーム編成を行います。
- ②三重奏と四重奏のトランペットアンサンブルを中心にレッスンを行います。
- ③三重奏と四重奏のトランペットアンサンブルを中心にレッスンを行います。
- ④三重奏と四重奏のトランペットアンサンブルを中心にレッスンを行います。
- ⑤三重奏と四重奏のトランペットアンサンブルを中心にレッスンを行います。
- ⑥三重奏と四重奏のトランペットアンサンブルを中心にレッスンを行います。
- ⑦三重奏と四重奏のトランペットアンサンブルを中心にレッスンを行います。

中間試験評価方法・評価基準

理論を理解し実践できているか。楽曲とパートの役割を理解して演奏しているか。積極的にアンサンブルに参加しているか。

出席：50%、平常点：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧二重奏から大編成のトランペットアンサンブルのレッスンを行います。
- ⑨二重奏から大編成のトランペットアンサンブルのレッスンを行います。
- ⑩二重奏から大編成のトランペットアンサンブルのレッスンを行います。
- ⑪二重奏から大編成のトランペットアンサンブルのレッスンを行います。
- ⑫二重奏から大編成のトランペットアンサンブルのレッスンを行います。
- ⑬二重奏から大編成のトランペットアンサンブルのレッスンを行います。
- ⑭二重奏から大編成のトランペットアンサンブルのレッスンを行います。
- ⑮発表会を行います。

期末試験評価方法・評価基準

理論を理解し実践できているか。楽曲とパートの役割を理解して演奏しているか。積極的にアンサンブルに参加しているか。

出席：50%、平常点：50%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅱ（トロンボーン）
担当講師名	山口隼士
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験があります。

授業内容

楽譜に書かれた音楽を正確に表現するための演奏技術、それを聞き手に伝えるための表現力の基礎を養うと共に、ソロや合奏の基本となる、合わせるという技術についても学んでいきます。優秀グループはバリオホールでのコンサートに出演。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽曲を理解し、十分表現ができるようになれるか

授業計画（1回目から7回目）

- ② ガイダンス メンバー決め、選曲
- ② アナリーゼ 曲の分析
- ③ 曲の理解 全体像の把握
- ④ アンサンブルテクニック1 バランス・アーティキュレーション・ダイナミクス・ハーモニー感
- ⑤ アンサンブルテクニック2 音色・バランス・AINザツ・リズム感・テンポ感・フレージングの統一
- ⑥ 仕上げ
- ⑦ 発表 授業内発表

中間試験評価方法・評価基準

演奏を伴う授業あるため、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。
出席 50% 平常点 30% 発表 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス メンバー決め、選曲

- ⑨ アナリーゼ 曲の分析
- ⑩ 曲の理解 全体像の把握
- ⑪ アンサンブルテクニック 1 バランス・音程・アーティキュレーション・ダイナミクス・ハーモニー感
- ⑫ アンサンブルテクニック 2 バランス・音程・AINザツ・リズム感・テンポ感・フレージングの統一
- ⑬ 仕上げ
- ⑭ 仕上げ
- ⑮ 演奏会 演奏会形式による実技試験

期末試験評価方法・評価基準

演奏を伴う授業あるため、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。
出席 50% 平常点 30% 発表 20%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽 II (ユーフォニアム・テューバ)
担当講師名	齋藤充
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

ユーフォニアム奏者・指導者として幅広い活動実績を持ち、本校では10年を超えてこの授業を担当しております。著書（単書）に加え、雑誌等への寄稿も多い。

授業内容

ユーフォニアム・テューバを通して様々な時代と様式、編成の室内楽曲を学んでゆく

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

デュエットから大編成まで、そしてバロックから現代の作品を、ユーフォニアム・テューバで触れてゆく。演奏技術の向上だけでなく、ユーフォニアム・テューバの室内楽曲を通して楽曲分析や音楽史の知識も高めてゆく。

授業計画（1回目から7回目）

- ① オリエンテーション、初見演奏
- ② オリジナルのカルテット作品を学ぶ
- ③ オリジナルのカルテット作品の理解を深める
- ④ オリジナルのカルテット作品のまとめ
- ⑤ 現代の作品に触れる
- ⑥ 現代の作品の理解を深める
- ⑦ 現代の作品のまとめ

中間試験評価方法・評価基準

オリジナル曲と現代作品の演奏、初見演奏能力をチェックする。

出席 20% 平常点 30% 試験 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ オリエンテーション、初見演奏
- ⑨ 編曲作品に触れる

- ⑩ 編曲作品の理解を深める
- ⑪ 編曲作品のまとめ
- ⑫ 自分で編曲をしてみる
- ⑬ 自編作品の演奏
- ⑭ 自編作品のまとめ
- ⑮ 授業内発表会

期末試験評価方法・評価基準

編曲作品と自編作品の演奏、初見演奏能力をチェックする。

出席 20% 平常点 30% 試験 50%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅱ（金管五重奏）
担当講師名	若林 育
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

プロのオーケストラの室内楽に多数参加。

授業内容

本室内楽クラスでは、金管五重奏の形式でアンサンブルの重要性を学びます。主にベーシックな楽曲を取り上げハーモニー、フレーズ、音色感の扱い方を理解し、独奏曲やオーケストラ、吹奏楽を含む様々な形態の室内楽に対応できる知識、感覚を身につけます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

室内楽でそれぞれが担う役割をよく理解し有機的に楽曲を構成する様々なスキルを習得。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス
- ② 楽曲演習・表現1 金管五重奏の重要なレパートリーを通して5人で一つの音楽を表現する方法を考え、実践する。
- ③ 楽曲演習・表現2
- ④ 楽曲演習・表現3
- ⑤ 楽曲演習・表現4
- ⑥ 楽曲演習・表現5
- ⑦ 授業内発表 クオーター末試験

中間試験評価方法・評価基準

出席：60% 平常点：30% 試験：10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス
- ⑨ 楽曲演習・発展1 楽曲のレベルを上げて、音楽表現と演奏技術の両立を図る。

- ⑩ 楽曲演習・発展 2
- ⑪ 楽曲演習・発展 3
- ⑫ 楽曲演習・発展 4
- ⑬ 楽曲演習・発展 5
- ⑭ 楽曲演習・発展 6
- ⑮ 授業内発表 学期末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席：60% 平常点：30% 試験：10%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅱ（打楽器）
担当講師名	増田博之
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

担当講師は、打楽器アンサンブル、オペラ、ミュージカル、スタジオ録音等での実務経験を持つ。

授業内容

打楽器アンサンブルで大切なセッティング。演奏上での合図の出し方・受け方、バチの動作（AINザツ）などの基本を学び、様々な打楽器によるアンサンブルを体験します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽器の特質から来る音量バランス、メロディーと伴奏のバランス、タテの線が合うなど、春学期よりも完成度の高いアンサンブルを作る事が目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 授業の説明。各曲の乗り番発表、楽譜準備、目標の確認。
- ② オリジナル作品の練習。スコアの確認①
- ③ オリジナル作品の練習。スコアの確認②
- ④ オリジナル作品の練習。スコアの確認③
- ⑤ オリジナル作品の練習。スコアの確認④
- ⑥ 試験へ向けての通しリハーサル、セッティングの確認。
- ⑦ 試験。（コンサート形式での公開テスト）

中間試験評価方法・評価基準

実技試験。
演奏の完成度 80%。セッティング、MC 等 20%。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 授業の説明。各曲の乗り番発表、楽譜準備、目標の確認。
- ⑨ オリジナル作品の練習。スコアの確認①

- ⑩ オリジナル作品の練習。スコアの確認②
 - ⑪ オリジナル作品の練習。スコアの確認③
 - ⑫ オリジナル作品の練習。スコアの確認④
 - ⑬ オリジナル作品の練習。スコアの確認⑤
 - ⑭ オリジナル作品の練習。スコアの確認⑥
- 試験へ向けての通しリハーサル、セッティング確認。
- ⑮ 試験。（コンサート形式での公開テスト）

期末試験評価方法・評価基準

実技試験。演奏の完成度 80%。セッティング、MC 等 20%。

特記事項

アンサンブル授業の為、欠席が多い場合は乗り番を変更する事があります。尚、4 クオーターの試験は秋学期で取り上げた楽曲の中から曲数を増やして行なう場合があります。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	吹奏楽 I
担当講師名	武田晃
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は陸上自衛隊中央音楽隊の隊長を10年間務めた他、アマチュア吹奏楽団の指導者としての実務経験を持ちます。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者を目指す者が学ばなければならないレパートリーとして、スタンダード・マーチ及び20世紀初・中期の歴史的作品ならびに現代の作品を取り上げ、それぞれの曲のスタイルと表現法について習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

合奏の音作りの基本を身に付けるとともにアンサンブル能力を向上させ、併せて曲に対する知識を深めることを目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 授業の内容と目的、合奏に臨む姿勢について説明
- ② 合奏能力の把握と学んでいくまでの課題と目標の明示
- ③ スタンダード・マーチと吹奏楽の古典1：拍子感と基本的表現法
- ④ スタンダード・マーチと吹奏楽の古典2：バランスとアーティキュレーション
- ⑤ スタンダード・マーチと吹奏楽の古典3：フレージングと曲に応じた表現法
- ⑥ 小編成及びフレキシブル編成楽曲1：特性と演奏法
- ⑦ 小編成及びフレキシブル編成楽曲2：少人数でのアンサンブル能力

中間試験評価方法・評価基準

平常点で評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 20世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品1：曲のスタイルと表現法
- ⑨ 20世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品2：バランスとアーティキュレーション

- ⑩ 20世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品3：フレージングとアゴーギク
- ⑪ 20世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品4：まとまりのあるアンサンブル
- ⑫ 20世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品5：前期発表会
- ⑬ その他のレパートリー1：曲のスタイルと表現法
- ⑭ その他のレパートリー2：バランスとアーティキュレーション
- ⑮ その他のレパートリー3：フレージングとアゴーギク

期末試験評価方法・評価基準

アンサンブル能力、表現力、合奏への貢献度を90%、出席・受講状況を10%として総合的に評価します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	吹奏楽 I
担当講師名	大井剛史
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

担当講師はプロのオーケストラや吹奏楽団での指導などの実務経験があります。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者を目指すものが学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び、歴史的作品を取り上げるとともに、新たなレパートリーについても学び、それぞれの曲のスタイルと表現方法を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

合奏の基本を習得するとともにアンサンブル能力が向上する。また、曲に対する知識が深まります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 導入、および合奏の基本 内容の説明と授業への取り組み方の説明
- ② 曲の理解、課題の確認 合奏を行いこの先の進行予定を把握する
- ③ 合奏技術の向上① 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ④ 合奏技術の向上② 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑤ 合奏技術の向上③ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑥ 合奏技術の向上④ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑦ 合奏技術の向上⑤ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

中間試験評価方法・評価基準

出席、受講状況を評価する。

出席 70%、平常点 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス、合奏技術の向上⑥
- ⑨ 合奏技術の向上⑦ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

- ⑩ 合奏技術の向上⑧ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑪ 合奏技術の向上⑨ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑫ 合奏技術の向上⑩ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑬ 合奏技術の向上⑪ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑭ 合奏技術の向上⑫ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑮ 本番

期末試験評価方法・評価基準

出席、受講状況を評価する。
出席 70%、平常点 30%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	吹奏楽Ⅱ
担当講師名	武田晃
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は陸上自衛隊中央音楽隊の隊長を10年間務めた他、アマチュア吹奏楽団の指導者としての実務経験を持ちます。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者を目指す者が学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び20世紀後期から現代の優れた作品を取り上げ、それぞれの曲のスタイルと表現法について習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

積極的に表現できる能力とアンサンブル全体を把握する能力を高め、より高いレベルの合奏を実現することを目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 20世紀後期の吹奏楽曲及び編曲作品1：曲のスタイルと表現法
- ② 20世紀後期の吹奏楽曲及び編曲作品2：バランスとアーティキュレーション
- ③ 20世紀後期の吹奏楽曲及び編曲作品3：フレージングとアゴーギク
- ④ 小編成及びフレキシブル編成楽曲3：特性と演奏法
- ⑤ 小編成及びフレキシブル編成楽曲4：少人数でのアンサンブル能力
- ⑥ 現代の吹奏楽曲及び編曲作品1：曲のスタイルと表現法
- ⑦ 現代の吹奏楽曲及び編曲作品2：バランスとアーティキュレーション

中間試験評価方法・評価基準

平常点で評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 現代の吹奏楽曲及び編曲作品3：フレージングとアゴーギク
- ⑨ 小編成及びフレキシブル編成楽曲5：特性と演奏法

- ⑩ 小編成及びフレキシブル編成楽曲 6：少人数でのアンサンブル能力
- ⑪ 独奏楽器と吹奏楽のための作品 1：伴奏の演奏法と独奏者とのバランス
- ⑫ 独奏楽器と吹奏楽のための作品 2：独奏者との息の合わせ方と表現の統一
- ⑬ 総合的なレパートリー 1：曲の背景と作曲家の特徴の理解
- ⑭ 総合的なレパートリー 2：コンサート全体のまとめり
- ⑮ 総合的なレパートリー 3：ウィンター・バンド・フェスティバル

期末試験評価方法・評価基準

アンサンブル能力、表現力、合奏への貢献度を 90%、出席・受講状況を 10% として総合的に評価します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	吹奏楽Ⅱ
担当講師名	大井剛史
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

担当講師はプロのオーケストラや吹奏楽団での指導などの実務経験があります。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者を目指すものが学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び、歴史的作品を取り上げるとともに、新たなレパートリーについても学び、それぞれの曲のスタイルと表現方法を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

合奏の基本を習得するとともにアンサンブル能力が向上する。また、曲に対する知識が深まります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 導入、および合奏の基本 内容の説明と授業への取り組み方の説明
- ② 曲の理解、課題の確認 合奏を行いこの先の進行予定を把握する
- ③ 合奏技術の向上① 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ④ 合奏技術の向上② 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑤ 合奏技術の向上③ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑥ 合奏技術の向上④ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑦ 合奏技術の向上⑤ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

中間試験評価方法・評価基準

出席、受講状況を評価する。

出席 70%、平常点 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス、合奏技術の向上⑥
- ⑨ 合奏技術の向上⑦ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

- ⑩ 合奏技術の向上⑧ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑪ 合奏技術の向上⑨ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑫ 合奏技術の向上⑩ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑬ 合奏技術の向上⑪ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑭ 合奏技術の向上⑫ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑮ 本番

期末試験評価方法・評価基準

出席、受講状況を評価する。
出席 70%、平常点 30%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	インターンシップ I
担当講師名	大山智
学期	春
授業の形態	実習（集中講座）
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

授業内容

【集中講座】

演奏曲に対するアナリーゼをもとに、どうアプローチをするか考える。
ミュージックセオリー やソルフェージュをどう応用できるか考える。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アナリーゼと楽曲の演奏がマッチするようになる。

授業計画（1回目から7回目）

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦

中間試験評価方法・評価基準

楽曲分析レポート提出

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧
- ⑨
- ⑩
- ⑪

⑫
⑬
⑭
⑮

期末試験評価方法・評価基準

楽曲分析レポート提出

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	インターナシップⅡ
担当講師名	大山智
学期	秋
授業の形態	実習（集中講座）
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

授業内容

【集中講座】

演奏曲に対するアナリーゼをもとに、どうアプローチをするか考える。
ミュージックセオリー やソルフェージュをどう応用できるか考える。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アナリーゼと楽曲の演奏がマッチするようになる。

授業計画（1回目から7回目）

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦

中間試験評価方法・評価基準

楽曲分析レポート提出

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧
- ⑨
- ⑩
- ⑪

⑫
⑬
⑭
⑮

期末試験評価方法・評価基準

楽曲分析レポート提出

特記事項

学科名	管絃打楽器科
科目名	合唱 I
担当講師名	山田麻由
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

大阪音楽大学卒業後、「レ・ミゼラブル」のオーディションに合格。その後もミュージカルの舞台を中心に活躍。「太平洋序曲」日本公演初演より、NY 公演&ワシントン DC 公演にも参加。

授業内容

自らの身体を「声を出す楽器」ととらえ、基本的な発声を学びつつ、ミュージカルの楽曲を用いることにより、ミュージカルについての知識を広げ、また、アンサンブル曲を歌唱することにより、音楽を表現する感性を身につけていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音楽を感じ歌える様になる事により、自分の楽器演奏にも応用出来る表現力の基礎を身につけることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 声を出す楽器である、自身の身体の仕組みと、発声方法を学びます。
- ② 「Seasons of love」を用いて、音楽を感じる事を学びます。
- ③ 「Seasons of love」を用いて、声を出してユニゾンで歌います。
- ④ 「Seasons of love」を用いて、ハーモニーを練習します。
- ⑤ 「Seasons of love」を英語歌詞で歌います。
- ⑥ 仕上げ練習をします。
- ⑦ 授業内試験を行います。歌唱パフォーマンスを試験とします。

中間試験評価方法・評価基準

授業で練習した楽曲を歌唱することを試験とします。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ディズニーミュージカルの世界観を学びます。
- ⑨ アランメンケン作曲の作品より選曲した曲を歌唱練習します。
- ⑩ アランメンケン作曲の作品より選曲した曲を歌唱練習します。
- ⑪ アランメンケン作曲の作品より選曲した曲を歌唱練習します。
- ⑫ 「Circle of Life」を用いて、歌唱練習します。
- ⑬ 「Circle of Life」を用いて、歌唱練習します。
- ⑭ 仕上げ練習をします。
- ⑮ 授業内試験を行います。歌唱パフォーマンスを試験とします

期末試験評価方法・評価基準

授業で練習した楽曲を歌唱することを試験とします。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	管絃打楽器科
科目名	合唱 II
担当講師名	山田麻由
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

大阪音楽大学卒業後、「レ・ミゼラブル」のオーディションに合格。その後もミュージカルの舞台を中心に活躍。「太平洋序曲」日本公演初演より、NY 公演&ワシントン DC 公演にも参加。

授業内容

自らの身体を「声を出す楽器」ととらえ、基本的な発声を学びつつ、ミュージカルの楽曲を用いることにより、ミュージカルについての知識を広げ、また、アンサンブル曲を歌唱することにより、音楽を表現する感性を身につけていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音楽を感じ歌える様になる事により、自分の楽器演奏にも応用出来る表現力の基礎を身につけることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① アンドリュードウェバー作曲作品の世界観を学びます。
- ② アンドリュードウェバー作曲作品より選曲した曲を歌唱練習します。
- ③ アンドリュードウェバー作曲作品より選曲した曲を歌唱練習します。
- ④ クロード＝ミシェル・シェーンベルク作曲作品の世界観を学びます。
- ⑤ クロード＝ミシェル・シェーンベルク作曲作品より選曲した曲を歌唱練習します
- ⑥ クロード＝ミシェル・シェーンベルク作曲作品より選曲した曲を歌唱練習します。
- ⑦ 授業内試験を行います。歌唱パフォーマンスを試験とします。

中間試験評価方法・評価基準

授業で練習した楽曲を歌唱することを試験とします。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ シルヴェスター・リーヴァイ作曲作品の世界観を学びます。
- ⑨ シルヴェスター・リーヴァイ作曲作品より選曲した曲を歌唱練習します。
- ⑩ シルヴェスター・リーヴァイ作曲作品より選曲した曲を歌唱練習します。
- ⑪ フランク・ワイルドホーン作曲作品の世界観を学びます。
- ⑫ フランク・ワイルドホーン作曲作品より選曲した曲を歌唱練習します。
- ⑬ フランク・ワイルドホーン作曲作品より選曲した曲を歌唱練習します。
- ⑭ 授業内試験に向けて、仕上げ練習をします。
- ⑮ 授業内試験を行います。歌唱パフォーマンスを試験とします

期末試験評価方法・評価基準

授業で練習した楽曲を歌唱することを試験とします。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ピアノ基礎技法 I
担当講師名	瀬川千穂、大導寺鍊太郎
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は数々のコンサートで、ソロや声楽や器楽の伴奏やピアノアンサンブルの実務経験を持ちます

授業内容

クラシックピアノの基礎を学びます。I クオーターではバロック時代、II クオーターでは古典派時代の曲を演習します。曲は初級から上級までの課題曲の中から自分に合ったものを選曲し、クオーター末試験で演奏します。スケールは 1 オクターブから 4 オクターブまで、各自のレベルに合わせた形で弾けるようになれば合格とし、次の調へ進みます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ピアノの基礎的な手や指の使い方（タッチ）、曲の解釈の仕方、練習方法など、授業の中で身についていきます。毎回の授業でスケールとカデンツも実習し、スケールは 1 オクターブから 4 オクターブまで、各自のレベルに合わせた形で弾けるようになれば合格とし、次の調へ進みます。

授業計画（1回目から 7回目）

- ① バロック時代 1. この時代の概要を解説し、課題曲から選曲します。
- ② バロック時代 2. バロックの曲を聴きます。課題曲とスケールのレッスンをします。
- ③ バロック時代 3. タッチや指使い、アーティキュレーションの確認をします。
- ④ バロック時代 4. 曲の構造やハーモニーについて確認します。
- ⑤ バロック時代 5. テンポや響きのバランスを整えて仕上げの目処を立てます。
- ⑥ バロック時代 6. 次週の試験に向けて課題曲とスケールを仕上げていきます。
- ⑦ クオーター末試験 これまで 6 回の授業で勉強した曲とスケールを演奏します。

中間試験評価方法・評価基準

毎回の授業にしっかりと取り組めたか、7回の授業でどれだけ進歩したかを評価します。
出席 50%、試験 50%の合計で成績を出します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 古典派時代 1. この時代の概要を解説し、課題曲から選曲します。
- ⑨ 古典派時代 2. 古典派の曲を聴きます。課題曲とスケールのレッスンをします。
- ⑩ 古典派時代 3. 古典派の曲を聴きます。曲の譜読みを進めます。
- ⑪ 古典派時代 4. タッチや指使い、アーティキュレーションの確認をします。
- ⑫ 古典派時代 5. 曲の構造やハーモニーについて確認します。
- ⑬ 古典派時代 6. テンポや響きのバランスを整えて仕上げの目処を立てます。
- ⑭ 古典派時代 7. 次週の試験に向けて課題曲とスケールを仕上げていきます。
- ⑮ クオーター末試験 これまで7回の授業で勉強した曲とスケールを演奏します。

期末試験評価方法・評価基準

毎回の授業にしっかり取り組めたか、8回の授業でどれだけ進歩したかを評価します。
出席 50%、試験 50%の合計で成績を出します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ピアノ基礎技法 II
担当講師名	瀬川千穂、大導寺鍊太郎
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は数々のコンサートで、ソロや声楽や器楽の伴奏やピアノアンサンブルの実務経験を持ちます

授業内容

クラシックピアノの基礎を学びます。III クオーターはロマン派、IV クオーターは近現代のピアノ曲を演習します。強弱やペダルなど、ピアノらしい表情の豊かな演奏を目指して毎回のレッスンを積み重ねましょう。引き続き毎回スケールとカデンツの演習をします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ピアノの基礎的な手や指の使い方（タッチ）、曲の解釈の仕方、ペダリング、練習方法などを授業の中で身につけていきます。毎回の授業でスケールとカデンツも実習し、スケールは1オクターブから4オクターブまで、各自のレベルに合わせた形で弾けるようになれば合格とし、次の調へ進みます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ロマン派時代 1. この時代の概要を解説し、課題曲から選曲します。
- ② ロマン派時代 2. ロマン派の曲を聴きます。課題曲とスケールのレッスンをします。
- ③ ロマン派時代 3. ロマン派の曲を聴きます。曲の譜読みを進めます。
- ④ ロマン派時代 4. タッチや指使い、アーティキュレーションの確認をします。
- ⑤ ロマン派時代 5. 曲の構造やハーモニーについて確認します。
- ⑥ ロマン派時代 6. テンポや響きのバランスを整えて仕上げの目処を立てます。
- ⑦ クオーター末試験 これまで6回の授業で勉強した曲とスケールを演奏します。

中間試験評価方法・評価基準

毎回の授業にしっかりと取り組めたか、7回の授業でどれだけ進歩したかを評価します。
出席 50%、試験 50%の合計で成績を出します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 近現代のピアノ曲 1. この時代の概要を解説し、課題曲から選曲します。
- ⑨ 近現代のピアノ曲 2. 近現代の曲を聴きます。課題曲とスケールのレッスンをします。
- ⑩ 近現代のピアノ曲 3. 近現代の曲を聴きます。曲の譜読みを進めます。
- ⑪ 近現代のピアノ曲 4. タッチや指使い、アーティキュレーションの確認をします。
- ⑫ 近現代のピアノ曲 5. 曲の構造やハーモニーについて確認します。
- ⑬ 近現代のピアノ曲 6. テンポや響きのバランスを整えて仕上げの目処を立てます。
- ⑭ 近現代のピアノ曲 7. 次週の試験に向けて課題曲とスケールを仕上げていきます。
- ⑮ クオーター末試験 これまで 7 回の授業で勉強した曲とスケールを演奏します。

期末試験評価方法・評価基準

毎回の授業にしっかりと取り組めたか、8回の授業でどれだけ進歩したかを評価します。
出席 50%、試験 50%の合計で成績を出します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	オーケストラ A I
担当講師名	館市正克、小室昌弘、小谷泉、福島有希子、多田逸左久、下田太郎、川瀬達也、他
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経験

担当講師は、プロのオーケストラでの演奏や指導などの実務経験が豊富にある。

授業内容

人生観や世界観を表現した交響曲、民族の心や自然界を描いた管弦楽曲、多様な舞踊曲などのオーケストラ曲を用い、大きな合奏におけるアンサンブルの基本と応用を学び、依頼演奏に対応できる演奏レベルを目指します。

管打楽器のメンバーはオーディションによってパートを決定します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々な音色と音域の楽器が一同できるよう個々のセクションの技術、アンサンブル能力、表現力の追求と向上、そして聴衆が心に残る演奏を目指します。

リハーサルからコンサートまでの取組み方なども実体験で学びます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 管打楽器オーディション/弦楽器は譜読み
- ② 管打楽器オーディション/弦楽器はボウイング決定と楽曲の全体像を理解する
- ③ 合奏で全体像を把握します
- ④ 合奏でダイナミックレンジの重要性を理解します
- ⑤ 分奏で細部を詰めます
- ⑥ 合奏でより高度なアンサンブルに挑みます
- ⑦ 合奏で細部を詰めます

中間試験評価方法・評価基準

出席率 50%、練習の取組みと運営への協力 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 合奏で完成度を把握します
- ⑨ 指揮者・横島先生と打合せを行い A プロ合奏
- ⑩ 指揮者・横島先生と打合せを行い B プロ合奏
- ⑪ 指揮者・横島先生と A プロ合奏
- ⑫ 指揮者・横島先生と B プロ合奏
- ⑬ 指揮者・横島先生と AB プロより合奏
- ⑭ 指揮者・横島先生/コンチェルトのタベ A プロ本番
- ⑮ 指揮者・横島先生/コンチェルトのタベ B プロ本番

期末試験評価方法・評価基準

コンサートにてセクションごとの技術、音色、アンサンブル能力、表現力と分析、本番までの取組みなどを総合的に評価します。

出席率 50%、練習の取組みと運営への協力 50%

特記事項

幅広く音楽の奥深さなどを学ぶので、個人演奏の向上にも役立つ。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	オーケストラ A II
担当講師名	館市正克、小室昌弘、小谷泉、福島有希子、多田逸左久、下田太郎、川瀬達也、他
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経験

担当講師は、プロのオーケストラでの演奏や指導などの実務経験が豊富にある。

授業内容

人生観や世界観を表現した交響曲、民族の心や自然界を描いた管弦楽曲、多様な舞踊曲などのオーケストラ曲を用い、大きな合奏におけるアンサンブルの基本と応用を学び、依頼演奏に対応できる演奏レベルを目指します。

管打楽器のメンバーはオーディションによってパートを決定します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々な音色と音域の楽器が一同できるよう個々のセクションの技術、アンサンブル能力、表現力の追求と向上、そして聴衆が心に残る演奏を目指します。

リハーサルからコンサートまでの取組み方なども実体験で学びます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 管打楽器オーディション/弦楽器は譜読み
- ② 管打楽器オーディション/弦楽器はボウイング決定と楽曲の全体像を理解する
- ③ 研究発表会の準備と合奏。
- ④ 合奏でダイナミックレンジの重要性を理解します
- ⑤ 合奏または分奏などで細部を詰めます
- ⑥ 合奏でより高度なアンサンブルに挑みます
- ⑦ 合奏で細部を詰めます

中間試験評価方法・評価基準

出席率 50%、練習の取組みと運営への協力 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 合奏で完成度を把握します
- ⑨ 合奏または分奏で細部を詰めます
- ⑩ 楽曲の意図を合奏で把握します
- ⑪ ダイナミックレンジを確認します
- ⑫ 合奏でリズムと音程を確認します
- ⑬ 合奏で通し練習をします
- ⑭ 前回の至らない箇所を見出し合奏で極めます
- ⑮ 実演による研究発表会

期末試験評価方法・評価基準

コンサートにてセクションごとの技術、音色、アンサンブル能力、表現力と分析、本番までの取組みなどを総合的に評価します。

出席率 50%、練習の取組みと運営への協力 50%

特記事項

オーケストラ演奏を実体験することにより、広い視野を持つことやチャレンジ精神などが学べます。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ポップス合奏 A I
担当講師名	織田浩司
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

演奏家、指揮者、指導者、プロデューサーとしての実務経験があります。
米米CLUB、BIG HORNS BEE メンバー、ブラバンディズニー指揮者。

授業内容

合奏を通してポピュラー音楽の演奏法の習得を目指します。ジャズ、ロック、ラテン等様々な音楽スタイルを理解し、表現力を身につけます。毎回、教材を使った基礎理解と合奏を行います。

毎回、新曲を取り上げ、読譜力、理解力を実践的に身につけます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ポピュラー音楽演奏の基本を学び、発表会で完成度の高い演奏をすることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス/オーメンズ・オブ・ラヴ
- ② 宝島
- ③ となりのトトロ
- ④ ディスコキッド
- ⑤ 君の瞳に恋してる
- ⑥ ミッキーマウスマーチ
- ⑦ 全曲まとめ

中間試験評価方法・評価基準

毎回の受講態度を評価します。出席、アンサンブルへの貢献度など。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ アラジンメドレー
- ⑨ スwingしなけりや意味が無い

- ⑩ イン・ザ・ムード
- ⑪ ゲッタウェイ
- ⑫ 人生のメリーゴーランド
- ⑬ キルビルのテーマ
- ⑭ ライオンキングメドレー
- ⑮ 全曲まとめ

期末試験評価方法・評価基準

毎回の受講態度を評価します。出席、アンサンブルへの貢献度など。

特記事項

曲目は前年度の例です。別の曲を取り上げることがあります。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ポップス合奏 A II
担当講師名	織田浩司
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

演奏家、指揮者、指導者、プロデューサーとしての実務経験があります。
米米CLUB、BIG HORNS BEE メンバー、ブラバンディズニー指揮者。

授業内容

合奏を通してポピュラー音楽の演奏法の習得を目指します。ジャズ、ロック、ラテン等様々な音楽スタイルを理解し、表現力を身につけます。毎回、教材を使った基礎理解と合奏を行います。

毎回、新曲を取り上げ、読譜力、理解力を実践的に身につけます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ポピュラー音楽演奏の基本を学び、発表会で完成度の高い演奏をすることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① セレブレーション
- ② すべてをあなたに
- ③ 東京ディズニーリゾートメドレー
- ④ ドラえもん JAZZ
- ⑤ DANCIN'会津磐梯山
- ⑥ デイトリッパー
- ⑦ 全曲まとめ

中間試験評価方法・評価基準

毎回の受講態度を評価します。出席、アンサンブルへの貢献度など。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ クリスマスマドレー

- ⑨ ベイシー・ストレート・アヘッド
- ⑩ チキン
- ⑪ 銀河鉄道 999
- ⑫ リトルマーメイドメドレー
- ⑬ ミシェル・ルグランメドレー
- ⑭ バードランド
- ⑮ 全曲まとめ

期末試験評価方法・評価基準

毎回の受講態度を評価します。出席、アンサンブルへの貢献度など。

特記事項

曲目は前年度の例です。別の曲を取り上げることがあります。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅰ（弦楽器）
担当講師名	館市正克 他
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラでの演奏や指導などの実務経験がある。

授業内容

多様な運弓奏法で多彩な音色を学びます。
弦楽器特有の表現力を習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実習にて多くの奏法を習得する。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 学習計画を理解する
- ② 課題曲を選定し、弦楽器の扱い方を学ぶ
- ③ 音階とアルペジオの重要性について理解する
- ④ 多様な弓づけに挑戦し表現方法を習得する
- ⑤ 音楽の意図を理解する
- ⑥ テンポの重要性と音の処理を理解する
- ⑦ 確認のためのテスト

中間試験評価方法・評価基準

出席率、受講姿勢、実演を総合評価します
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 課題曲の選定
- ⑨ ボウイングの決定を行う
- ⑩ 楽曲の様式と意図を習得する
- ⑪ 主旋律、副旋律、伴奏形態について

- ⑫ 呼吸を踏まえたアンサンブルについて習得する
- ⑬ 弦楽器ならではの純正調に挑む
- ⑭ 楽曲の全体像を捉える
- ⑮ 確認のためのテスト

期末試験評価方法・評価基準

一年を振り返り、アンサンブル能力の裁可を総合評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

アンサンブルの基本を学ぶので、個人演奏の向上に役立つ。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	室内楽Ⅱ（弦楽器）
担当講師名	館市正克 他
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

担当講師は、プロのオーケストラでの演奏や指導などの実務経験が豊富にある。

授業内容

多様な運弓奏法とフィンガリングで多彩な音色を学びます。
弦楽器特有の表現力を深く広く習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実習にて様々な奏法を習得する。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 学習計画を理解する
- ② 課題曲選定を行い、弦楽器の扱い方を学ぶ
- ③ 音階とアルペジオの重要性について理解する
- ④ 多様な弓づけに挑戦し表現方法を習得する
- ⑤ 音楽の意図を理解する
- ⑥ テンポの重要性と音の処理を理解する
- ⑦ 確認のためのテスト

中間試験評価方法・評価基準

出席率、受講姿勢、実演を総合評価します
出席：50% 実演：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 課題曲の選定
- ⑨ ボウイングの決定を行う
- ⑩ 楽曲の様式や時代背景を習得する
- ⑪ 主旋律、副旋律、伴奏形態について

- ⑫ 呼吸を踏まえたテンポ感覚とアンサンブルについて習得する
- ⑬ 弦楽器ならではのフュージオレットと純正調を理解する
- ⑭ 楽曲の全体像と意図を捉える
- ⑮ 確認のためのテスト

期末試験評価方法・評価基準

一年を振り返り、アンサンブル能力の裁可を総合評価します。

出席：50% 試験：50%

特記事項

弦楽合奏ならではの幅広く奥深い響きを体験し、心豊かな人間を育成する。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	オーケストラⅠ
担当講師名	館市正克、小室昌弘、小谷泉、福島有希子、多田逸左久、下田太郎、川瀬達也、他
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経験

担当講師は、プロのオーケストラでの演奏や指導などの実務経験が豊富にある。

授業内容

人生観や世界観を表現した交響曲、民族の心や自然界を描いた管弦楽曲、多様な舞踊曲などのオーケストラ曲を用い、大きな合奏におけるアンサンブルの基本と応用を学び、依頼演奏に対応できる演奏レベルを目指します。

管打楽器のメンバーはオーディションによってパートを決定します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々な音色と音域の楽器が一同できるよう個々のセクションの技術、アンサンブル能力、表現力の追求と向上、そして聴衆が心に残る演奏を目指します。

リハーサルからコンサートまでの取組み方なども実体験で学びます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 管打楽器オーディション/弦楽器は譜読み
- ② 管打楽器オーディション/弦楽器はボウイング決定と楽曲の全体像を理解する
- ③ 合奏で全体像を把握します
- ④ 合奏でダイナミックレンジの重要性を理解します
- ⑤ 分奏で細部を詰めます
- ⑥ 合奏でより高度なアンサンブルに挑みます
- ⑦ 合奏で細部を詰めます

中間試験評価方法・評価基準

出席率 50%、練習の取組みと運営への協力 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 合奏で完成度を把握します
- ⑨ 指揮者・横島先生と打合せを行い A プロ合奏
- ⑩ 指揮者・横島先生と打合せを行い B プロ合奏
- ⑪ 指揮者・横島先生と A プロ合奏
- ⑫ 指揮者・横島先生と B プロ合奏
- ⑬ 指揮者・横島先生と AB プロより合奏
- ⑭ 指揮者・横島先生/コンチェルトのタベ A プロ本番
- ⑮ 指揮者・横島先生/コンチェルトのタベ B プロ本番

期末試験評価方法・評価基準

コンサートにてセクションごとの技術、音色、アンサンブル能力、表現力と分析、本番までの取組みなどを総合的に評価します。

出席率 50%、練習の取組みと運営への協力 50%

特記事項

幅広く音楽の奥深さなどを学ぶので、個人演奏の向上にも役立つ。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	オーケストラ II
担当講師名	館市正克、小室昌弘、小谷泉、福島有希子、多田逸左久、下田太郎、川瀬達也、他
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経験

担当講師は、プロのオーケストラでの演奏や指導などの実務経験が豊富にある。

授業内容

人生観や世界観を表現した交響曲、民族の心や自然界を描いた管弦楽曲、多様な舞踊曲などのオーケストラ曲を用い、大きな合奏におけるアンサンブルの基本と応用を学び、依頼演奏に対応できる演奏レベルを目指します。

管打楽器のメンバーはオーディションによってパートを決定します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々な音色と音域の楽器が一同できるよう個々のセクションの技術、アンサンブル能力、表現力の追求と向上、そして聴衆が心に残る演奏を目指します。

リハーサルからコンサートまでの取組み方なども実体験で学びます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 管打楽器オーディション/弦楽器は譜読み
- ② 管打楽器オーディション/弦楽器はボウイング決定と楽曲の全体像を理解する
- ③ 研究発表会の準備と合奏。
- ④ 合奏でダイナミックレンジの重要性を理解します
- ⑤ 合奏または分奏などで細部を詰めます
- ⑥ 合奏でより高度なアンサンブルに挑みます
- ⑦ 合奏で細部を詰めます

中間試験評価方法・評価基準

出席率 50%、練習の取組みと運営への協力 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 合奏で完成度を把握します
- ⑨ 合奏または分奏で細部を詰めます
- ⑩ 楽曲の意図を合奏で把握します
- ⑪ ダイナミックレンジを確認します
- ⑫ 合奏でリズムと音程を確認します
- ⑬ 合奏で通し練習をします
- ⑭ 前回の至らない箇所を見出し合奏で極めます
- ⑮ 実演による研究発表会

期末試験評価方法・評価基準

コンサートにてセクションごとの技術、音色、アンサンブル能力、表現力と分析、本番までの取組みなどを総合的に評価します。

出席率 50%、練習の取組みと運営への協力 50%

特記事項

オーケストラ演奏を実体験することにより、広い視野を持つことやチャレンジ精神などが学べます。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	インターンシップ I
担当講師名	大山智
学期	春
授業の形態	実習（集中講座）
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

授業内容

【集中講座】

演奏曲に対するアナリーゼをもとに、どうアプローチをするか考える。
ミュージックセオリー やソルフェージュをどう応用できるか考える。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アナリーゼと楽曲の演奏がマッチするようになる。

授業計画（1回目から7回目）

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦

中間試験評価方法・評価基準

楽曲分析レポート提出

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧
- ⑨
- ⑩
- ⑪

⑫
⑬
⑭
⑮

期末試験評価方法・評価基準

楽曲分析レポート提出

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	インターナシップⅡ
担当講師名	大山智
学期	秋
授業の形態	実習（集中講座）
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

授業内容

【集中講座】

演奏曲に対するアナリーゼをもとに、どうアプローチをするか考える。
ミュージックセオリー やソルフェージュをどう応用できるか考える。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アナリーゼと楽曲の演奏がマッチするようになる。

授業計画（1回目から7回目）

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦

中間試験評価方法・評価基準

楽曲分析レポート提出

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧
- ⑨
- ⑩
- ⑪

⑫
⑬
⑭
⑮

期末試験評価方法・評価基準

楽曲分析レポート提出

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	吹奏楽 I
担当講師名	武田晃
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は陸上自衛隊中央音楽隊の隊長を10年間務めた他、アマチュア吹奏楽団の指導者としての実務経験を持ちます。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者を目指す者が学ばなければならないレパートリーとして、スタンダード・マーチ及び20世紀初・中期の歴史的作品ならびに現代の作品を取り上げ、それぞれの曲のスタイルと表現法について習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

合奏の音作りの基本を身に付けるとともにアンサンブル能力を向上させ、併せて曲に対する知識を深めることを目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 授業の内容と目的、合奏に臨む姿勢について説明
- ② 合奏能力の把握と学んでいくまでの課題と目標の明示
- ③ スタンダード・マーチと吹奏楽の古典1：拍子感と基本的表現法
- ④ スタンダード・マーチと吹奏楽の古典2：バランスとアーティキュレーション
- ⑤ スタンダード・マーチと吹奏楽の古典3：フレージングと曲に応じた表現法
- ⑥ 小編成及びフレキシブル編成楽曲1：特性と演奏法
- ⑦ 小編成及びフレキシブル編成楽曲2：少人数でのアンサンブル能力

中間試験評価方法・評価基準

平常点で評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 20世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品1：曲のスタイルと表現法
- ⑨ 20世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品2：バランスとアーティキュレーション

- ⑩ 20世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品3：フレージングとアゴーギク
- ⑪ 20世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品4：まとまりのあるアンサンブル
- ⑫ 20世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品5：前期発表会
- ⑬ その他のレパートリー1：曲のスタイルと表現法
- ⑭ その他のレパートリー2：バランスとアーティキュレーション
- ⑮ その他のレパートリー3：フレージングとアゴーギク

期末試験評価方法・評価基準

アンサンブル能力、表現力、合奏への貢献度を90%、出席・受講状況を10%として総合的に評価します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	吹奏楽 I
担当講師名	大井剛史
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

担当講師はプロのオーケストラや吹奏楽団での指導などの実務経験があります。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者を目指すものが学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び、歴史的作品を取り上げるとともに、新たなレパートリーについても学び、それぞれの曲のスタイルと表現方法を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

合奏の基本を習得するとともにアンサンブル能力が向上する。また、曲に対する知識が深まります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 導入、および合奏の基本 内容の説明と授業への取り組み方の説明
- ② 曲の理解、課題の確認 合奏を行いこの先の進行予定を把握する
- ③ 合奏技術の向上① 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ④ 合奏技術の向上② 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑤ 合奏技術の向上③ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑥ 合奏技術の向上④ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑦ 合奏技術の向上⑤ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

中間試験評価方法・評価基準

出席、受講状況を評価する。

出席 70%、平常点 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス、合奏技術の向上⑥
- ⑨ 合奏技術の向上⑦ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

- ⑩ 合奏技術の向上⑧ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑪ 合奏技術の向上⑨ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑫ 合奏技術の向上⑩ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑬ 合奏技術の向上⑪ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑭ 合奏技術の向上⑫ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑮ 本番

期末試験評価方法・評価基準

出席、受講状況を評価する。
出席 70%、平常点 30%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	吹奏楽Ⅱ
担当講師名	武田晃
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は陸上自衛隊中央音楽隊の隊長を10年間務めた他、アマチュア吹奏楽団の指導者としての実務経験を持ちます。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者を目指す者が学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び20世紀後期から現代の優れた作品を取り上げ、それぞれの曲のスタイルと表現法について習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

積極的に表現できる能力とアンサンブル全体を把握する能力を高め、より高いレベルの合奏を実現することを目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 20世紀後期の吹奏楽曲及び編曲作品1：曲のスタイルと表現法
- ② 20世紀後期の吹奏楽曲及び編曲作品2：バランスとアーティキュレーション
- ③ 20世紀後期の吹奏楽曲及び編曲作品3：フレージングとアゴーギク
- ④ 小編成及びフレキシブル編成楽曲3：特性と演奏法
- ⑤ 小編成及びフレキシブル編成楽曲4：少人数でのアンサンブル能力
- ⑥ 現代の吹奏楽曲及び編曲作品1：曲のスタイルと表現法
- ⑦ 現代の吹奏楽曲及び編曲作品2：バランスとアーティキュレーション

中間試験評価方法・評価基準

平常点で評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 現代の吹奏楽曲及び編曲作品3：フレージングとアゴーギク
- ⑨ 小編成及びフレキシブル編成楽曲5：特性と演奏法

- ⑩ 小編成及びフレキシブル編成楽曲 6：少人数でのアンサンブル能力
- ⑪ 独奏楽器と吹奏楽のための作品 1：伴奏の演奏法と独奏者とのバランス
- ⑫ 独奏楽器と吹奏楽のための作品 2：独奏者との息の合わせ方と表現の統一
- ⑬ 総合的なレパートリー 1：曲の背景と作曲家の特徴の理解
- ⑭ 総合的なレパートリー 2：コンサート全体のまとめり
- ⑮ 総合的なレパートリー 3：ウィンター・バンド・フェスティバル

期末試験評価方法・評価基準

アンサンブル能力、表現力、合奏への貢献度を 90%、出席・受講状況を 10% として総合的に評価します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	吹奏楽Ⅱ
担当講師名	大井剛史
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

担当講師はプロのオーケストラや吹奏楽団での指導などの実務経験があります。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者を目指すものが学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び、歴史的作品を取り上げるとともに、新たなレパートリーについても学び、それぞれの曲のスタイルと表現方法を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

合奏の基本を習得するとともにアンサンブル能力が向上する。また、曲に対する知識が深まります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 導入、および合奏の基本 内容の説明と授業への取り組み方の説明
- ② 曲の理解、課題の確認 合奏を行いこの先の進行予定を把握する
- ③ 合奏技術の向上① 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ④ 合奏技術の向上② 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑤ 合奏技術の向上③ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑥ 合奏技術の向上④ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑦ 合奏技術の向上⑤ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

中間試験評価方法・評価基準

出席、受講状況を評価する。

出席 70%、平常点 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス、合奏技術の向上⑥
- ⑨ 合奏技術の向上⑦ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

- ⑩ 合奏技術の向上⑧ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑪ 合奏技術の向上⑨ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑫ 合奏技術の向上⑩ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑬ 合奏技術の向上⑪ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑭ 合奏技術の向上⑫ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑮ 本番

期末試験評価方法・評価基準

出席、受講状況を評価する。
出席 70%、平常点 30%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ポップス合奏 I
担当講師名	織田浩司
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

演奏家、指揮者、指導者、プロデューサーとしての実務経験があります。
米米CLUB、BIG HORNS BEE メンバー、ブラバンディズニー指揮者。

授業内容

合奏を通してポピュラー音楽の演奏法の習得を目指します。ジャズ、ロック、ラテン等様々な音楽スタイルを理解し、表現力を身につけます。毎回、教材を使った基礎理解と合奏を行います。

毎回、新曲を取り上げ、読譜力、理解力を実践的に身につけます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ポピュラー音楽演奏の基本を学び、発表会で完成度の高い演奏をすることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス/オーメンズ・オブ・ラヴ
- ② 宝島
- ③ となりのトトロ
- ④ ディスコキッド
- ⑤ 君の瞳に恋してる
- ⑥ ミッキーマウスマーチ
- ⑦ 全曲まとめ

中間試験評価方法・評価基準

毎回の受講態度を評価します。出席、アンサンブルへの貢献度など。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ アラジンメドレー
- ⑨ スwingしなけりや意味が無い

- ⑩ イン・ザ・ムード
- ⑪ ゲッタウェイ
- ⑫ 人生のメリーゴーランド
- ⑬ キルビルのテーマ
- ⑭ ライオンキングメドレー
- ⑮ 全曲まとめ

期末試験評価方法・評価基準

毎回の受講態度を評価します。出席、アンサンブルへの貢献度など。

特記事項

曲目は前年度の例です。別の曲を取り上げることがあります。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ポップス合奏Ⅱ
担当講師名	織田浩司
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

演奏家、指揮者、指導者、プロデューサーとしての実務経験があります。
米米CLUB、BIG HORNS BEE メンバー、ブラバンディズニー指揮者。

授業内容

合奏を通してポピュラー音楽の演奏法の習得を目指します。ジャズ、ロック、ラテン等様々な音楽スタイルを理解し、表現力を身につけます。毎回、教材を使った基礎理解と合奏を行います。

毎回、新曲を取り上げ、読譜力、理解力を実践的に身につけます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ポピュラー音楽演奏の基本を学び、発表会で完成度の高い演奏をすることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① セレブレーション
- ② すべてをあなたに
- ③ 東京ディズニーリゾートメドレー
- ④ ドラえもんJAZZ
- ⑤ DANCIN'会津磐梯山
- ⑥ デイトリッパー
- ⑦ 全曲まとめ

中間試験評価方法・評価基準

毎回の受講態度を評価します。出席、アンサンブルへの貢献度など。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ クリスマスマドレー

- ⑨ ベイシー・ストレート・アヘッド
- ⑩ チキン
- ⑪ 銀河鉄道 999
- ⑫ リトルマーメイドメドレー
- ⑬ ミシェル・ルグランメドレー
- ⑭ バードランド
- ⑮ 全曲まとめ

期末試験評価方法・評価基準

毎回の受講態度を評価します。出席、アンサンブルへの貢献度など。

特記事項

曲目は前年度の例です。別の曲を取り上げることがあります。

学科名	管絃打楽器科
科目名	合唱 I
担当講師名	山田麻由
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

大阪音楽大学卒業後、「レ・ミゼラブル」のオーディションに合格。その後もミュージカルの舞台を中心に活躍。「太平洋序曲」日本公演初演より、NY 公演&ワシントン DC 公演にも参加。

授業内容

自らの身体を「声を出す楽器」ととらえ、基本的な発声を学びつつ、ミュージカルの楽曲を用いることにより、ミュージカルについての知識を広げ、また、アンサンブル曲を歌唱することにより、音楽を表現する感性を身につけていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音楽を感じ歌える様になる事により、自分の楽器演奏にも応用出来る表現力の基礎を身につけることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 声を出す楽器である、自身の身体の仕組みと、発声方法を学びます。
- ② 「Seasons of love」を用いて、音楽を感じる事を学びます。
- ③ 「Seasons of love」を用いて、声を出してユニゾンで歌います。
- ④ 「Seasons of love」を用いて、ハーモニーを練習します。
- ⑤ 「Seasons of love」を英語歌詞で歌います。
- ⑥ 仕上げ練習をします。
- ⑦ 授業内試験を行います。歌唱パフォーマンスを試験とします。

中間試験評価方法・評価基準

授業で練習した楽曲を歌唱することを試験とします。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ディズニーミュージカルの世界観を学びます。
- ⑨ アランメンケン作曲の作品より選曲した曲を歌唱練習します。
- ⑩ アランメンケン作曲の作品より選曲した曲を歌唱練習します。
- ⑪ アランメンケン作曲の作品より選曲した曲を歌唱練習します。
- ⑫ 「Circle of Life」を用いて、歌唱練習します。
- ⑬ 「Circle of Life」を用いて、歌唱練習します。
- ⑭ 仕上げ練習をします。
- ⑮ 授業内試験を行います。歌唱パフォーマンスを試験とします

期末試験評価方法・評価基準

授業で練習した楽曲を歌唱することを試験とします。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	管絃打楽器科
科目名	合唱 II
担当講師名	山田麻由
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

大阪音楽大学卒業後、「レ・ミゼラブル」のオーディションに合格。その後もミュージカルの舞台を中心に活躍。「太平洋序曲」日本公演初演より、NY 公演&ワシントン DC 公演にも参加。

授業内容

自らの身体を「声を出す楽器」ととらえ、基本的な発声を学びつつ、ミュージカルの楽曲を用いることにより、ミュージカルについての知識を広げ、また、アンサンブル曲を歌唱することにより、音楽を表現する感性を身につけていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音楽を感じ歌える様になる事により、自分の楽器演奏にも応用出来る表現力の基礎を身につけることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① アンドリュードウェバー作曲作品の世界観を学びます。
- ② アンドリュードウェバー作曲作品より選曲した曲を歌唱練習します。
- ③ アンドリュードウェバー作曲作品より選曲した曲を歌唱練習します。
- ④ クロード＝ミシェル・シェーンベルク作曲作品の世界観を学びます。
- ⑤ クロード＝ミシェル・シェーンベルク作曲作品より選曲した曲を歌唱練習します
- ⑥ クロード＝ミシェル・シェーンベルク作曲作品より選曲した曲を歌唱練習します。
- ⑦ 授業内試験を行います。歌唱パフォーマンスを試験とします。

中間試験評価方法・評価基準

授業で練習した楽曲を歌唱することを試験とします。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ シルヴェスター・リーヴァイ作曲作品の世界観を学びます。
- ⑨ シルヴェスター・リーヴァイ作曲作品より選曲した曲を歌唱練習します。
- ⑩ シルヴェスター・リーヴァイ作曲作品より選曲した曲を歌唱練習します。
- ⑪ フランク・ワイルドホーン作曲作品の世界観を学びます。
- ⑫ フランク・ワイルドホーン作曲作品より選曲した曲を歌唱練習します。
- ⑬ フランク・ワイルドホーン作曲作品より選曲した曲を歌唱練習します。
- ⑭ 授業内試験に向けて、仕上げ練習をします。
- ⑮ 授業内試験を行います。歌唱パフォーマンスを試験とします

期末試験評価方法・評価基準

授業で練習した楽曲を歌唱することを試験とします。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ピアノ基礎技法 I
担当講師名	瀬川千穂、大導寺鍊太郎
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は数々のコンサートで、ソロや声楽や器楽の伴奏やピアノアンサンブルの実務経験を持ちます

授業内容

クラシックピアノの基礎を学びます。I クオーターではバロック時代、II クオーターでは古典派時代の曲を演習します。曲は初級から上級までの課題曲の中から自分に合ったものを選曲し、クオーター末試験で演奏します。スケールは 1 オクターブから 4 オクターブまで、各自のレベルに合わせた形で弾けるようになれば合格とし、次の調へ進みます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ピアノの基礎的な手や指の使い方（タッチ）、曲の解釈の仕方、練習方法など、授業の中で身についていきます。毎回の授業でスケールとカデンツも実習し、スケールは 1 オクターブから 4 オクターブまで、各自のレベルに合わせた形で弾けるようになれば合格とし、次の調へ進みます。

授業計画（1回目から 7回目）

- ① バロック時代 1. この時代の概要を解説し、課題曲から選曲します。
- ② バロック時代 2. バロックの曲を聴きます。課題曲とスケールのレッスンをします。
- ③ バロック時代 3. タッチや指使い、アーティキュレーションの確認をします。
- ④ バロック時代 4. 曲の構造やハーモニーについて確認します。
- ⑤ バロック時代 5. テンポや響きのバランスを整えて仕上げの目処を立てます。
- ⑥ バロック時代 6. 次週の試験に向けて課題曲とスケールを仕上げていきます。
- ⑦ クオーター末試験 これまで 6 回の授業で勉強した曲とスケールを演奏します。

中間試験評価方法・評価基準

毎回の授業にしっかりと取り組めたか、7回の授業でどれだけ進歩したかを評価します。
出席 50%、試験 50%の合計で成績を出します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 古典派時代 1. この時代の概要を解説し、課題曲から選曲します。
- ⑨ 古典派時代 2. 古典派の曲を聴きます。課題曲とスケールのレッスンをします。
- ⑩ 古典派時代 3. 古典派の曲を聴きます。曲の譜読みを進めます。
- ⑪ 古典派時代 4. タッチや指使い、アーティキュレーションの確認をします。
- ⑫ 古典派時代 5. 曲の構造やハーモニーについて確認します。
- ⑬ 古典派時代 6. テンポや響きのバランスを整えて仕上げの目処を立てます。
- ⑭ 古典派時代 7. 次週の試験に向けて課題曲とスケールを仕上げていきます。
- ⑮ クオーター末試験 これまで7回の授業で勉強した曲とスケールを演奏します。

期末試験評価方法・評価基準

毎回の授業にしっかり取り組めたか、8回の授業でどれだけ進歩したかを評価します。
出席 50%、試験 50%の合計で成績を出します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ピアノ基礎技法 II
担当講師名	瀬川千穂、大導寺鍊太郎
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は数々のコンサートで、ソロや声楽や器楽の伴奏やピアノアンサンブルの実務経験を持ちます

授業内容

クラシックピアノの基礎を学びます。III クオーターはロマン派、IV クオーターは近現代のピアノ曲を演習します。強弱やペダルなど、ピアノらしい表情の豊かな演奏を目指して毎回のレッスンを積み重ねましょう。引き続き毎回スケールとカデンツの演習をします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ピアノの基礎的な手や指の使い方（タッチ）、曲の解釈の仕方、ペダリング、練習方法などを授業の中で身につけていきます。毎回の授業でスケールとカデンツも実習し、スケールは1オクターブから4オクターブまで、各自のレベルに合わせた形で弾けるようになれば合格とし、次の調へ進みます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ロマン派時代 1. この時代の概要を解説し、課題曲から選曲します。
- ② ロマン派時代 2. ロマン派の曲を聴きます。課題曲とスケールのレッスンをします。
- ③ ロマン派時代 3. ロマン派の曲を聴きます。曲の譜読みを進めます。
- ④ ロマン派時代 4. タッチや指使い、アーティキュレーションの確認をします。
- ⑤ ロマン派時代 5. 曲の構造やハーモニーについて確認します。
- ⑥ ロマン派時代 6. テンポや響きのバランスを整えて仕上げの目処を立てます。
- ⑦ クオーター末試験 これまで6回の授業で勉強した曲とスケールを演奏します。

中間試験評価方法・評価基準

毎回の授業にしっかりと取り組めたか、7回の授業でどれだけ進歩したかを評価します。
出席 50%、試験 50%の合計で成績を出します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 近現代のピアノ曲 1. この時代の概要を解説し、課題曲から選曲します。
- ⑨ 近現代のピアノ曲 2. 近現代の曲を聴きます。課題曲とスケールのレッスンをします。
- ⑩ 近現代のピアノ曲 3. 近現代の曲を聴きます。曲の譜読みを進めます。
- ⑪ 近現代のピアノ曲 4. タッチや指使い、アーティキュレーションの確認をします。
- ⑫ 近現代のピアノ曲 5. 曲の構造やハーモニーについて確認します。
- ⑬ 近現代のピアノ曲 6. テンポや響きのバランスを整えて仕上げの目処を立てます。
- ⑭ 近現代のピアノ曲 7. 次週の試験に向けて課題曲とスケールを仕上げていきます。
- ⑮ クオーター末試験 これまで 7 回の授業で勉強した曲とスケールを演奏します。

期末試験評価方法・評価基準

毎回の授業にしっかりと取り組めたか、8回の授業でどれだけ進歩したかを評価します。
出席 50%、試験 50%の合計で成績を出します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	吹奏楽 I
担当講師名	武田晃
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は陸上自衛隊中央音楽隊の隊長を10年間務めた他、アマチュア吹奏楽団の指導者としての実務経験を持ちます。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者を目指す者が学ばなければならないレパートリーとして、スタンダード・マーチ及び20世紀初・中期の歴史的作品ならびに現代の作品を取り上げ、それぞれの曲のスタイルと表現法について習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

合奏の音作りの基本を身に付けるとともにアンサンブル能力を向上させ、併せて曲に対する知識を深めることを目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 授業の内容と目的、合奏に臨む姿勢について説明
- ② 合奏能力の把握と学んでいくまでの課題と目標の明示
- ③ スタンダード・マーチと吹奏楽の古典1：拍子感と基本的表現法
- ④ スタンダード・マーチと吹奏楽の古典2：バランスとアーティキュレーション
- ⑤ スタンダード・マーチと吹奏楽の古典3：フレージングと曲に応じた表現法
- ⑥ 小編成及びフレキシブル編成楽曲1：特性と演奏法
- ⑦ 小編成及びフレキシブル編成楽曲2：少人数でのアンサンブル能力

中間試験評価方法・評価基準

平常点で評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 20世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品1：曲のスタイルと表現法
- ⑨ 20世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品2：バランスとアーティキュレーション

- ⑩ 20世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品3：フレージングとアゴーギク
- ⑪ 20世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品4：まとまりのあるアンサンブル
- ⑫ 20世紀中期の吹奏楽曲及び編曲作品5：前期発表会
- ⑬ その他のレパートリー1：曲のスタイルと表現法
- ⑭ その他のレパートリー2：バランスとアーティキュレーション
- ⑮ その他のレパートリー3：フレージングとアゴーギク

期末試験評価方法・評価基準

アンサンブル能力、表現力、合奏への貢献度を90%、出席・受講状況を10%として総合的に評価します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	吹奏楽 I
担当講師名	大井剛史
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

担当講師はプロのオーケストラや吹奏楽団での指導などの実務経験があります。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者を目指すものが学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び、歴史的作品を取り上げるとともに、新たなレパートリーについても学び、それぞれの曲のスタイルと表現方法を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

合奏の基本を習得するとともにアンサンブル能力が向上する。また、曲に対する知識が深まります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 導入、および合奏の基本 内容の説明と授業への取り組み方の説明
- ② 曲の理解、課題の確認 合奏を行いこの先の進行予定を把握する
- ③ 合奏技術の向上① 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ④ 合奏技術の向上② 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑤ 合奏技術の向上③ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑥ 合奏技術の向上④ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑦ 合奏技術の向上⑤ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

中間試験評価方法・評価基準

出席、受講状況を評価する。

出席 70%、平常点 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス、合奏技術の向上⑥
- ⑨ 合奏技術の向上⑦ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

- ⑩ 合奏技術の向上⑧ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑪ 合奏技術の向上⑨ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑫ 合奏技術の向上⑩ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑬ 合奏技術の向上⑪ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑭ 合奏技術の向上⑫ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑮ 本番

期末試験評価方法・評価基準

出席、受講状況を評価する。
出席 70%、平常点 30%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	吹奏楽Ⅱ
担当講師名	武田晃
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は陸上自衛隊中央音楽隊の隊長を10年間務めた他、アマチュア吹奏楽団の指導者としての実務経験を持ちます。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者を目指す者が学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び20世紀後期から現代の優れた作品を取り上げ、それぞれの曲のスタイルと表現法について習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

積極的に表現できる能力とアンサンブル全体を把握する能力を高め、より高いレベルの合奏を実現することを目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 20世紀後期の吹奏楽曲及び編曲作品1：曲のスタイルと表現法
- ② 20世紀後期の吹奏楽曲及び編曲作品2：バランスとアーティキュレーション
- ③ 20世紀後期の吹奏楽曲及び編曲作品3：フレージングとアゴーギク
- ④ 小編成及びフレキシブル編成楽曲3：特性と演奏法
- ⑤ 小編成及びフレキシブル編成楽曲4：少人数でのアンサンブル能力
- ⑥ 現代の吹奏楽曲及び編曲作品1：曲のスタイルと表現法
- ⑦ 現代の吹奏楽曲及び編曲作品2：バランスとアーティキュレーション

中間試験評価方法・評価基準

平常点で評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 現代の吹奏楽曲及び編曲作品3：フレージングとアゴーギク
- ⑨ 小編成及びフレキシブル編成楽曲5：特性と演奏法

- ⑩ 小編成及びフレキシブル編成楽曲 6：少人数でのアンサンブル能力
- ⑪ 独奏楽器と吹奏楽のための作品 1：伴奏の演奏法と独奏者とのバランス
- ⑫ 独奏楽器と吹奏楽のための作品 2：独奏者との息の合わせ方と表現の統一
- ⑬ 総合的なレパートリー 1：曲の背景と作曲家の特徴の理解
- ⑭ 総合的なレパートリー 2：コンサート全体のまとめり
- ⑮ 総合的なレパートリー 3：ウィンター・バンド・フェスティバル

期末試験評価方法・評価基準

アンサンブル能力、表現力、合奏への貢献度を 90%、出席・受講状況を 10% として総合的に評価します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	吹奏楽Ⅱ
担当講師名	大井剛史
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

担当講師はプロのオーケストラや吹奏楽団での指導などの実務経験があります。

授業内容

吹奏楽の演奏者及び指導者を目指すものが学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び、歴史的作品を取り上げるとともに、新たなレパートリーについても学び、それぞれの曲のスタイルと表現方法を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

合奏の基本を習得するとともにアンサンブル能力が向上する。また、曲に対する知識が深まります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 導入、および合奏の基本 内容の説明と授業への取り組み方の説明
- ② 曲の理解、課題の確認 合奏を行いこの先の進行予定を把握する
- ③ 合奏技術の向上① 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ④ 合奏技術の向上② 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑤ 合奏技術の向上③ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑥ 合奏技術の向上④ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑦ 合奏技術の向上⑤ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

中間試験評価方法・評価基準

出席、受講状況を評価する。

出席 70%、平常点 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ガイダンス、合奏技術の向上⑥
- ⑨ 合奏技術の向上⑦ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

- ⑩ 合奏技術の向上⑧ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑪ 合奏技術の向上⑨ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑫ 合奏技術の向上⑩ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑬ 合奏技術の向上⑪ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑭ 合奏技術の向上⑫ 合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
- ⑮ 本番

期末試験評価方法・評価基準

出席、受講状況を評価する。
出席 70%、平常点 30%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	専攻レパートリー研究Ⅰ
担当講師名	高梨裕久
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は吹奏楽やマーチング編成で豊富な合奏経験をもつバンドディレクターで、日本管打・吹奏楽学会吹奏楽検定委員としての研究や啓蒙活動の経験を持ちます。

授業内容

吹奏楽指導者として知っておくべき楽曲やメソードを研究していきます。2年生の「吹奏楽基礎指導実習」と合同で行い、その作品、作曲者、音源、出版等を調査し、1人ずつ資料を作成し発表していきます。授業では演奏者としても参加します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

将来指導を行うことも考え、専門知識をプレゼンできる能力を養う。その方法や工夫など、人に伝えていくことを身につけていくことが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ①基礎合奏メソード、ベーシックレパートリーの確認と、プレゼン担当者決め
- ②「アメリカのオリジナル作品」1
- ③「アメリカのオリジナル作品」2
- ④「アメリカのオリジナル作品」3
- ⑤「アメリカのオリジナル作品」4
- ⑥「アメリカのオリジナル作品」5
- ⑦「アメリカのオリジナル作品」6

中間試験評価方法・評価基準

評価は出席率を重視し、プレゼン資料作成およびプレゼン内容も加味します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧「ヨーロッパのオリジナル作品」1
- ⑨「ヨーロッパのオリジナル作品」2

- ⑩ 「ヨーロッパのオリジナル作品」 3
- ⑪ 「ヨーロッパのオリジナル作品」 4
- ⑫ 「日本のオリジナル作品」 1
- ⑬ 「日本のオリジナル作品」 2
- ⑭ 「日本のオリジナル作品」 3
- ⑮ 「日本のオリジナル作品」 4

期末試験評価方法・評価基準

評価は出席率を重視し、プレゼン資料作成およびプレゼン内容も加味します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	専攻レパートリー研究Ⅱ
担当講師名	高梨裕久
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は吹奏楽やマーチング編成で豊富な合奏経験をもつバンドディレクターで、日本管打・吹奏楽学会吹奏楽検定委員としての研究や啓蒙活動の経験を持ちます。

授業内容

吹奏楽指導者として知っておくべき楽曲やメソードを研究していきます。2年生の「吹奏楽基礎指導実習」と合同で行い、その作品、作曲者、音源、出版等を調査し、1人ずつ資料を作成し発表していきます。授業では演奏者としても参加します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

将来指導を行うことも考え、専門知識をプレゼンできる能力を養う。その方法や工夫など、人に伝えていくことを身につけていくことが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ①基礎合奏メソード、ベーシックレパートリーの確認と、プレゼン担当者決め
- ②「アメリカのマーチ作品」1
- ③「アメリカのマーチ作品」2
- ④「アメリカのマーチ作品」3
- ⑤「アメリカのマーチ作品」4
- ⑥「アメリカのマーチ作品」5
- ⑦「アメリカのマーチ作品」6

中間試験評価方法・評価基準

評価は出席率を重視し、プレゼン資料作成およびプレゼン内容も加味します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧「ヨーロッパのマーチ作品」1
- ⑨「ヨーロッパのマーチ作品」2

- ⑩ 「ヨーロッパのマーチ作品」 3
- ⑪ 「ヨーロッパのマーチ作品」 4
- ⑫ 「日本のマーチ作品」 1
- ⑬ 「日本のマーチ作品」 2
- ⑭ 「日本のマーチ作品」 3
- ⑮ 「日本のマーチ作品」 4

期末試験評価方法・評価基準

評価は出席率を重視し、プレゼン資料作成およびプレゼン内容も加味します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	インターンシップ I
担当講師名	高梨裕久
学期	春
授業の形態	実習（集中講座）
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

授業内容

【集中講座】

演奏曲に対するアナリーゼをもとに、どうアプローチをするか考える。
ミュージックセオリー やソルフェージュをどう応用できるか考える。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アナリーゼと楽曲の演奏がマッチするようになる。

授業計画（1回目から7回目）

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦

中間試験評価方法・評価基準

楽曲分析レポート提出

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧
- ⑨
- ⑩
- ⑪

⑫
⑬
⑭
⑮

期末試験評価方法・評価基準

楽曲分析レポート提出

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	インターンシップⅡ
担当講師名	高梨裕久
学期	秋
授業の形態	実習（集中講座）
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

授業内容

【集中講座】

演奏曲に対するアナリーゼをもとに、どうアプローチをするか考える。
ミュージックセオリー やソルフェージュをどう応用できるか考える。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アナリーゼと楽曲の演奏がマッチするようになる。

授業計画（1回目から7回目）

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦

中間試験評価方法・評価基準

楽曲分析レポート提出

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧
- ⑨
- ⑩
- ⑪

⑫
⑬
⑭
⑮

期末試験評価方法・評価基準

楽曲分析レポート提出

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	リペア研究
担当講師名	特別講師（2名）
学期	秋
授業の形態	演習（特別講座・集中）
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師2名共に、管楽器リペア技術師としての活動およびリペアマン育成の実務経験があります。

授業内容

この科目で取り上げる楽器は木管楽器（フルート・クラリネット）、金管楽器（トランペット・ホルン・トロンボーン）の予定。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽器の構造や形態を理解し、正常な状態の楽器とはどのようなものなのかを見分ける力を身に付けます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①フルート1：分解
- ②フルート2：組み立て1
- ③フルート3：組み立て2
- ④フルート4：パッド交換
- ⑤フルート5：ジョイントコルク交換
- ⑥クラリネット1：分解
- ⑦クラリネット2：組み立て1

中間試験評価方法・評価基準

4日間の特別講座で行うため、出席と取組姿勢を評価の対象とします。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧クラリネット3：組み立て2
- ⑨クラリネット4：パッド交換
- ⑩クラリネット5：ジョイントコルク交換

- ⑪トランペット1：分解
- ⑫トランペット2：組み立て
- ⑬ホルン：糸交換
- ⑭トロンボーン：ストップフェルト交換
- ⑮まとめ

期末試験評価方法・評価基準

4日間の特別講座で行うため、出席と取組姿勢を評価の対象とします。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	吹奏楽概論 I
担当講師名	高梨裕久
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は吹奏楽やマーチング編成で豊富な合奏経験をもつバンドディレクターで、日本管打・吹奏楽学会吹奏楽検定委員としての研究や啓蒙活動の経験を持ちます。

授業内容

この科目では、日本の吹奏楽史、編成とサウンドの関係、アマチュア団体における活動についてなど、幅広く学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

日本の吹奏楽の始まりの理解、楽器構造がサウンドにもたらす影響の理解、またアマチュア団体の指導時に身に付けておくべき知識と留意点を身に付けることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ①これまでの吹奏楽との関わりや基礎知識の確認およびアンケート
- ②楽器名や調性
- ③日本の吹奏楽の始まり
- ④編成・セッティング1：軍楽隊、スーザバンド等、音源鑑賞含
- ⑤編成・セッティング2：イーストマン・ウィンドアンサンブル等、音源鑑賞含
- ⑥編成・セッティング3：ギャルド・レピュブリケーヌ等、音源鑑賞含
- ⑦理解度確認（テスト）

中間試験評価方法・評価基準

評価方法は、平常点や意欲（出席率含）に加え、理解度を加味して評価します。
理解度や意欲における評価は、授業開始時に行う前週の確認や授業内の質疑応答を評価対象とします。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧アマチュア団体の活動1：ディスカッション含

- ⑨アマチュア団体の活動 2 : コンテスト等の実施規定等の理解
- ⑩アマチュア団体の活動 3 : コンテスト等の審査方法等の理解
- ⑪吹奏楽編成で使用される楽器 1 : 名称や調性の他、音域や特性等の構造を理解
- ⑫吹奏楽編成で使用される楽器 2 : 同様
- ⑬吹奏楽編成で使用される楽器 3 : 同様
- ⑭吹奏楽編成で使用される楽器 4 : 同様
- ⑮理解度確認（テスト）

期末試験評価方法・評価基準

評価方法は、平常点や意欲（出席率含）に加え、理解度を加味して評価します。
理解度や意欲における評価は、授業開始時に行う前週の確認や授業内の質疑応答を評価対象とします。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	吹奏楽概論 II
担当講師名	高梨裕久
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は吹奏楽やマーチング編成で豊富な合奏経験をもつバンドディレクターで、日本管打・吹奏楽学会吹奏楽検定委員としての研究や啓蒙活動の経験を持ちます。

授業内容

この科目では、春学期に習得した内容をもとに、各楽器の基礎知識について学びます。また吹奏楽検定3級（一般社団法人日本管打・吹奏楽学会）の内容を取り組みます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

主に木管楽器についての知識習得と発音や特徴の理解を深める。また、吹奏楽検定3級の合格を目指しながら、これまで学んだ基礎的な知識を定着させる。

授業計画（1回目から7回目）

- ①フルート1：基礎知識の理解、楽器の組み立て、頭部管の発音
- ②フルート2：同属楽器について、構え方、運指
- ③フルート3：タンギングと倍音を取り入れた、簡単なメロディーの演奏
- ④クラリネット1：基礎知識の理解、楽器の組み立て、マウスピースとバレルの発音
- ⑤クラリネット2：同属楽器について、構え方、運指
- ⑥クラリネット3：タンギングとレジスターキーを使用した、簡単なメロディーの演奏
- ⑦理解度確認（テスト）

中間試験評価方法・評価基準

評価方法は、平常点や意欲（出席率含）に加え、理解度を加味して評価します。理解度や意欲における評価は、授業開始時に行う前週の確認や授業内の質疑応答を評価対象とします。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧移調楽器の記譜と実音の確認

- ⑨音域表の作成 1：吹奏楽編成の管・弦・鍵盤楽器の各音域の理解
- ⑩音域表の作成 2
- ⑪音域表の提出
- ⑫吹奏楽検定 3 級 試験対策 1
- ⑬吹奏楽検定 3 級 試験対策 2
- ⑭吹奏楽検定 3 級 試験対策 3
- ⑮吹奏楽検定 3 級 試験

期末試験評価方法・評価基準

評価方法は、平常点や意欲（出席率含）に加え、吹奏楽検定 3 級の合否を加味して評価します。意欲における評価は、授業開始時に行う前週の確認や授業内の質疑応答を評価対象とします。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	マーチング概論 I
担当講師名	山田江味
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は一般社団法人日本マーチングバンド協会公認指導員及び常任検定委員、本部検定員。指導者ライセンス研修会及び、講師研修会、担当講師。

授業内容

マーチングバンド指導者ライセンス 3 級の取得を目指します。また技能ライセンス MM 2 級と同程度の技術の習得。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

マーチング基本動作及び基本的知識の習得（3 級ライセンス程度）

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ① ガイダンス／授業、検定試験についての説明。ポイントの貼り方など。
- ② 基本動作 I／静止間動作（気をつけ、休め、足踏み、方向変換など）
- ③ 基本動作 II／行進間動作（前進など）
- ④ 基本動作 III／静止間動作及び行進間動作の組み合わせ（L 字練習）
- ⑤ コンビネーション I／4 人 1 組での動きのパターンを習得します。（ピンフィールなど）
- ⑥ コンビネーション II／4 人 1 組での動きのパターンを習得します。（フォローザリーダー、トリックスピントなど）
- ⑦ コンビネーション III／これまでの動きの習得のポイント、指導のポイントなどを学びます。

中間試験評価方法・評価基準

授業内評価とします。各授業にて小テストを行うため、この結果も加味します。

出席：40% 平常点：30% 小テスト：30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ペーパートレーニング I／マーチングの歴史、使用する用語などの習得
- ⑨ ペーパートレーニング II／ルーティーン読解
- ⑩ 課題発表／3級ライセンス検定で行う実技課題の発表を行います。
- ⑪ 3級ライセンス検定／
- ⑫ 応用動作 I／フロントベル、後進、いろいろな歩幅の習得
- ⑬ 応用動作 II／4人1組での動きのパターンを習得します。(クロス、クロスオーバー、オブリークなど)
- ⑭ 応用動作 III／4人1組での動きのパターンを習得します。(スクエアスピinn、クローズオーブンなど)
- ⑮ 期末試験／実技試験及び筆記試験。

期末試験評価方法・評価基準

3級ライセンス検定の結果及び検定に向かう姿勢を評価します。
期末試験はここまで習得した動きの実技試験と筆記試験を行います。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	マーチング概論Ⅱ
担当講師名	山田江味
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は一般社団法人日本マーチングバンド協会公認指導員及び常任検定委員、本部検定員。指導者ライセンス研修会及び、講師研修会、担当講師。

授業内容

コンテ作成の基本を学びます。
ドリルデザインシートに手書きでのコンテ作成を行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

パターンドリルの作成。及び簡単なコンテの作成。またショウ構成の考え方について学びます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① コンテ作成初級I／ルーティーン読解
- ② コンテ作成初級II／パターンドリル4人組
- ③ コンテ作成初級III／パターンドリル8人組
- ④ コンテ作成初級IV／パターンドリル8人組（128拍程度）
- ⑤ コンテ作成初級V／自分たちの作成したコンテを実際に動いて問題点を洗い出します
- ⑥ コンテ作成初級VI／パターンドリル8人組（1曲）
- ⑦ コンテ作成初級VII／自分たちの作成したコンテを実際に動いて問題点を洗い出します

中間試験評価方法・評価基準

授業内で作成したコンテを評価の対象とします。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ コンテ作成中級I／様々な図形の作成方法について学びます
- ⑨ コンテ作成中級II／図形から図形への隊形変換について学びます

- ⑩ コンテ作成中級III／楽器の配置について学びます
- ⑪ コンテ作成中級IV／課題曲をもとにコンテを作成します
- ⑫ コンテ作成中級V／課題曲をもとにコンテを作成します
- ⑬ コンテ作成中級VI／課題曲をもとにコンテを作成します
- ⑭ ショウ構成の考え方
- ⑮ コンテ提出

期末試験評価方法・評価基準

コンテ提出を行います。ミスなく作成できているか。楽器の配置に配慮がされているなどを評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	パフォーマンスバンドⅠ
担当講師名	石田修一
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は教育者、吹奏楽指導者、コーディネーターとして経験豊富な実務経験を持ちます。

授業内容

合奏やアンサンブルテクニック、スクールバンドの指導や教育について学びます。発表会では、多種多様なスタイル、ジャンルの楽曲研究や、歌やダンス、語り、照明を加えた舞台表現の追及・研究を行っていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

吹奏楽における合奏能力（チューニング、リズム、ハーモニートレーニング）、アンサンブルテクニックを身に付けます。また、音楽家としての必要なコーディネート力、柔軟な発想力を養い、パフォーマンスを取り入れた舞台芸術表現を身に付けることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ①オリエンテーション
- ②基礎合奏・チューニング・バランス・ハーモニー／サウンドトレーニング
- ③基礎合奏・コラール／サウンドの調和（ブレンド）
- ④基礎合奏・コラール・楽曲初見／音価、リズム、ハーモニーの統一
- ⑤基礎合奏・コラール・楽曲練習／ユニゾン統一、リズム処理、ハーモニー解釈・役割 等
- ⑥基礎合奏・コラール・楽曲練習／音色、バランス、テンポ、フレージング統一 等
- ⑦基礎合奏・コラール・楽曲練習／ダイナミクス、バランス、音程、音形、ハーモニー 等

中間試験評価方法・評価基準

評価方法は、出席 50%・係り 20%・平常(実技)30%とします。評価内容は、出席率、係りへの取組の他、受講態度を平常点とし、実技は合奏能力の習得、吹奏楽のサウンド作りの理解、基礎合奏から楽曲演奏へ発展することが出来ているか、を評価対象とします。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧基礎合奏・コラール・楽曲練習／音色の変化、コントラスト、速度変化 等
- ⑨楽曲・演技／速度設定、ニュアンス、アゴーギグ、振付の基本 等
- ⑩楽曲・演技／セクション間のアンサンブル、楽曲の振付・演技 等
- ⑪楽曲・演技／全体アンサンブル、様式感、楽曲への振付・演技 等
- ⑫総合リハーサル／細部の仕上げ
- ⑬総合リハーサル／演奏・演技の統一、視覚と聴覚の整合性
- ⑭総合リハーサル／通し練習、総合リハーサル
- ⑮本番

期末試験評価方法・評価基準

評価方法は、出席 50%・係り 20%・平常(実技)30%とします。評価内容は、出席率、係りへの取組の他、受講態度を平常点とし、実技は吹奏楽のサウンド作りの理解、アンサンブル能力、音楽に合わせた視覚効果の理解とその取組、を評価対象とします。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	パフォーマンスバンドⅡ
担当講師名	石田修一
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は教育者、吹奏楽指導者、コーディネーターとして経験豊富な実務経験を持ちます。

授業内容

合奏やアンサンブルテクニック、スクールバンドの指導や教育について学びます。発表会では、多種多様なスタイル、ジャンルの楽曲研究や、歌やダンス、語り、照明を加えた舞台表現の追及・研究を行っていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

吹奏楽における合奏能力（チューニング、リズム、ハーモニートレーニング）、アンサンブルテクニックを身に付けます。また、音楽家としての必要なコーディネート力、柔軟な発想力を養い、パフォーマンスを取り入れた舞台芸術表現を身に付けることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ①オリエンテーション／春学期本番の反省・確認、秋学期の本番へ向けて
- ②楽曲初見／本番の楽曲考案
- ③楽曲譜読み／本番の楽曲考案
- ④楽曲・構成／本番の構成考案
- ⑤楽曲・構成／本番の構成考案
- ⑥楽曲暗譜
- ⑦楽曲暗譜

中間試験評価方法・評価基準

評価方法は、出席 50%・係り 20%・平常(実技)30%とします。評価内容は、出席率、係りへの取組の他、受講態度を平常点とし、実技では 1,2 クオーターで身に付けた基礎力を基にし、レパートリーの習得・拡張が身に付いたかを評価の対象とします。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧楽曲暗譜・振付
- ⑨楽曲暗譜・振付
- ⑩総合リハーサル／ヴォーカル、ダンス、語り、照明合わせ
- ⑪総合リハーサル／ヴォーカル、ダンス、語り、照明合わせ
- ⑫総合リハーサル／ヴォーカル、ダンス、語り、照明合わせ
- ⑬総合リハーサル／演奏・演技の統一、視覚と聴覚の整合性
- ⑭総合リハーサル／通し練習、総合リハーサル
- ⑮本番

期末試験評価方法・評価基準

評価方法は、出席 50%・係り 20%・平常(実技)30%とします。評価内容は、出席率、係りへの取組の他、受講態度を平常点とし、実技では一年間身に付けた演奏力・演技力を、表現者として聴衆へとアピールすることを評価の対象とします。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	マーチングバンドⅠ
担当講師名	山田江味
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は一般社団法人日本マーチングバンド協会公認指導員。小学校～官公庁バンドまでの指導経験を持ちます。

授業内容

マーチングバンドとして、本番を迎えるまでの過程を体験し、その技術を習得します。それぞれの係り分担を決め、バンド運営、バンド指導のポイントを学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

マーチングの基本的な技術を身につけ表現できるようにします。またフォーメーション作成、ショウ構成のポイントについて学びます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 導入～オリエンテーション／スタッフ決め、組織づくり
- ② 基礎トレーニングⅠ／基本動作トレーニング（静止間動作）
- ③ 基礎トレーニングⅡ／基本動作トレーニング（行進間動作）
- ④ 基礎トレーニングⅢ／ディリートレーニングについて
- ⑤ フォーメーション練習Ⅰ／コンテ組み
- ⑥ フォーメーション練習Ⅱ／フォーメーションを整える方法について
- ⑦ フォーメーション練習Ⅲ／楽器を持っての動きの練習

中間試験評価方法・評価基準

授業内評価とします。マーチングバンドの中での自分の役割を理解し、バンドに貢献しようとしているか、積極的に参加しようとしているかを評価します。

出席：50% 平常点：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 合奏Ⅰ／マーチングバンドにおける合奏のポイントを学びます。

- ⑨ 合奏Ⅱ／マーチングバンドにおける合奏のポイントを学びます。
- ⑩ 合奏Ⅲ／マーチングバンドにおける合奏のポイントを学びます。
- ⑪ リハーサルテクニックⅠ／動きながらの合奏、フォーメーションの修正など。
- ⑫ リハーサルテクニックⅡ／動きながらの合奏、フォーメーションの修正など。
- ⑬ リハーサルテクニックⅢ／動きながらの合奏、フォーメーションの修正など。
- ⑭ 授業内発表に向けて／仕上げ、まとめ
- ⑮ 授業内発表／授業内での本番を行います。

期末試験評価方法・評価基準

授業内発表を試験とします。自分の与えられた役割を責任持ってこなしているか、バンドに貢献できているかを評価のポイントとします。

出席：40% 平常点：30% 試験：30%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	マーチングバンドⅡ
担当講師名	山田江味
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は一般社団法人日本マーチングバンド協会公認指導員。小学校～官公庁バンドまでの指導経験を持ちます。

授業内容

BAND FESTIVALに向けて、マーチングのトレーニング方法、コンテの作成方法、ショウの構成について学び、実践を行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

マーチングの基本的技術の習得、及びコンテの作成（希望者）

授業計画（1回目から7回目）

- ① ショウ構成について／選曲、メンバー決めなど
- ② 基礎トレーニングⅠ／マーチングに必要なディリートレーニングの実践
- ③ 基礎トレーニングⅡ／マーチングに必要なディリートレーニングの実践
- ④ フォーメーション実践Ⅰ／自分たちで作成したコンテをメンバーに動いてもらい、修正、変更等を行います。
- ⑤ フォーメーション実践Ⅱ／自分たちで作成したコンテをメンバーに動いてもらい、修正、変更等を行います。
- ⑥ フォーメーション実践Ⅲ／ラインを揃える、演出の追加等を行います。
- ⑦ フォーメーション実践Ⅳ／ラインを揃える、演出の追加等を行います。

中間試験評価方法・評価基準

授業内評価とします。自分の役割をこなそうとしているか、授業に参加しようとしているかを評価します。

出席：50% 平常点：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 合奏トレーニング I / マーチングバンドでの合奏トレーニング
- ⑨ 合奏トレーニング II / マーチングバンドでの合奏トレーニング
- ⑩ ステージドリル本番に向けて I / 演奏をしながら動きのトレーニングを行います。
- ⑪ ステージドリル本番に向けて II / 演奏をしながら動きのトレーニングを行います。
- ⑫ ステージドリル本番に向けて III / 演奏をしながら動きのトレーニングを行います。
- ⑬ ゲネプロ / 全体の流れの確認、照明の確認等、本番に向けての仕上げを行います。
- ⑭ BAND FESTIVAL 本番
- ⑮ 反省、まとめ / 本番の映像を鑑賞し、ふりかえりを行う。また係の仕事内容の見直しと次年度への引き継ぎ等を行う。

期末試験評価方法・評価基準

BAND FESTIVAL 本番を試験とします。BAND FESTIVAL に向けて自分の役割を積極的にかつ責任を持ってこなそうとしているか評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	マーチングパーカッション I
担当講師名	生乃久法
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

一般社団法人日本マーチングバンド協会公認指導員。小学校から官公庁バンドにおけるマーチング指導、マーチングパーカッション指導及び、吹奏楽指導に携わる。

授業内容

アマチュアマーチング団体への指導で必要となる知識やスキルを身に付けると同時に、年間2回の本番へ向けた演奏演技のグループレッスンを行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

個人の演奏技術向上、パートとしての演奏の統一の他、伝えていくことの方法論やその難しさの理解など、様々な側面を身に付けられるようになります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 導入：個々の技術・知識の確認／面談や「打楽器教則本」等のメソッドを用い、現状の把握
- ② 基本奏法①／シングル、ダブルストロークを使ってのリズムトレーニング
- ③ 基本奏法②／カウンティング＆タイミング、ナチュラルスティッキング
- ④ 基本奏法③／教則本を使ったソロ曲発表
- ⑤ 基本奏法④／シングル、ダブルストローク、パラディドルトレーニング
- ⑥ 基本奏法⑤／デュエット曲を使ってアンサンブルの基礎トレーニング
- ⑦ 試験／基本奏法①～⑤の確認

中間試験評価方法・評価基準

積極的に授業に参加し、研究しようという意思が現れているか。また正しい奏法を身に付け、確実に技術向上しているかを評価の対象とします。（出席60%、授業内評価40%）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 基本奏法⑥／アンサンブル曲発表説明

- ⑨ 基本奏法⑦／アンサンブル練習 1
- ⑩ 基本奏法⑧／アンサンブル練習 2
- ⑪ 総合／アンサンブル練習 3
- ⑫ 授業内発表会／本番までのグネプロ・運営の実践
- ⑬ BAND FESTIVAL へ向けて①／BAND FESTIVAL へ向けてのトレーニング&ミーティング
- ⑭ BAND FESTIVAL へ向けて②／ショーのまとめ
- ⑮ BAND FESTIVAL／本番

期末試験評価方法・評価基準

積極的に授業に参加し、研究しようという意思が現れているか。またショーの作成について正しい知識を身に付けられたか、マーチングに対し広い考えを持てているか、それが発表に成果として現れたかを評価の対象とします。（出席 60%、授業内評価 40%）

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	マーチングパーカッションⅡ
担当講師名	生乃久法
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

一般社団法人日本マーチングバンド協会公認指導員。小学校から官公庁バンドにおけるマーチング指導、マーチングパーカッション指導及び、吹奏楽指導に携わる。

授業内容

アマチュアマーチング団体への指導で必要となる知識やスキルを身に付けると同時に、年間2回の本番へ向けた演奏演技のグループレッスンを行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

個人の演奏技術向上、パートとしての演奏の統一の他、伝えていくことの方法論やその難しさの理解など、様々な側面を身に付けられるようになります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① BAND FESTIVAL 反省／反省および、WINTER BAND FESTIVALへの話し合い
- ② 応用奏法①／フラム（16分音符系）、フラムタップ等
- ③ 応用奏法②／ロール（3連符系、4連符系）
- ④ 応用奏法③／練習曲を使った小テスト
- ⑤ 応用奏法④／6/8アクセント&ロール
- ⑥ 応用奏法⑤／バズロール、ダブルストローク
- ⑦ 試験／応用奏法①～⑤の確認

中間試験評価方法・評価基準

積極的に授業に参加し、研究しようという意思が現れているか。また正しい奏法を身に付け、確実に技術向上しているかを評価の対象とします。（出席90%、授業内評価10%）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 応用奏法⑥／ソロ曲、デュエット曲
- ⑨ 応用奏法⑦／ソロ曲、デュエット曲

- ⑩ 応用奏法⑧／ソロ曲、デュエット曲
- ⑪ BAND FESTIVAL へ向けて①／アンサンブル練習 4
- ⑫ BAND FESTIVAL へ向けて②／アンサンブル練習 5
- ⑬ BAND FESTIVAL へ向けて③／アンサンブル練習 6
- ⑭ WINTER BAND FESTIVAL／本番
- ⑮ 反省／映像の鑑賞、スタッフごとの反省、他意見交換

期末試験評価方法・評価基準

積極的に授業に参加し、研究しようという意思が現れているか。またショーの作成について正しい知識を身に付けられたか、マーチングに対し広い考えを持っているか、それが発表に成果として現れたかを評価の対象とします。（出席 90%、授業内評価 10%）

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	カラーガード I
担当講師名	栗原香織
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師はマーチングバンドやカラーガードのショー作成、スクールバンドや公務員音楽隊のパフォーマンス指導等の経験を持ちます。

授業内容

アマチュアマーチング団体への指導で必要となる知識やスキルを身に付けると同時に、年間2回の本番へ向けた演技レッスンを行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

個人の演技技術の向上、パートとしての統一の他、指導者観点から伝えていくことの方法論やその難しさの理解など、様々な側面を身に付けることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①面談や基本操法等を行い、身に付いている技術・知識の確認、現状の把握を行います。
- ②基本操法1：テンハット、パレード・レスト、オーダー・アーム 他
- ③基本操法2：O. A.からのアングル・ポジション 他
- ④基本操法3：スウェープ 他
- ⑤基本操法4：コンビネーションI
- ⑥基本操法5：ロー・ポート&バック・ロー・ポート、フロントスピinn、サイドスピnn 他
- ⑦基本操法1～5の確認を行います。

中間試験評価方法・評価基準

積極的に授業に参加し、研究しようという意思が表れているか。
また正しい操法を身に付け、確実に技術向上しているかを評価の対象とします。
(出席90%、授業内評価10%)

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧基本操法6：ワンハンドスピnn、シングルスピnn 他

- ⑨基本操法 7：フィギュア・エイト&バック・フィギュア・エイト、ポップ・トス 他
- ⑩基本操法 8：コンビネーションⅡ
- ⑪基本操法 6～8 の確認を行います。
- ⑫授業内発表会(本番までのゲネプロ・運営の実践を行います。)
- ⑬BAND FESTIVAL へ向けて 1 (BAND FESTIVAL へ向けてのトレーニング&ミーティング)
- ⑭BAND FESTIVAL へ向けて 2 (ショーのまとめ)
- ⑮BAND FESTIVAL 本番

期末試験評価方法・評価基準

積極的に授業に参加し、研究しようという意思が表れているか。
またショーの作成について正しい知識を身に付けられたか、マーチングに対し広い考えを持てているか、それが発表に成果として現れたかを評価の対象とします。
(出席 90%、授業内評価 10%)

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	カラーガードⅡ
担当講師名	栗原香織
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師はマーチングバンドやカラーガードのショー作成、スクールバンドや公務員音楽隊のパフォーマンス指導等の経験を持ちます。

授業内容

アマチュアマーチング団体への指導で必要となる知識やスキルを身に付けると同時に、年間2回の本番へ向けた演技レッスンを行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

個人の演技技術の向上、パートとしての統一の他、指導者観点から伝えていくことの方法論やその難しさの理解など、様々な側面を身に付けることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①BAND FESTIVALの反省および、WINTER BAND FESTIVALへの話し合いを行います。
- ②応用操法1：チェンジ・ハンド（オーバー／アンダー）他
- ③応用操法2：コンビネーションⅢ
- ④布地の見本を用い、フラッグデザインの実習を行います。
- ⑤応用操法3：振付創作の実習を行います。
- ⑥応用操法4：振付創作の実習を行います。
- ⑦応用操法1～4の確認を行います。

中間試験評価方法・評価基準

積極的に授業に参加し、研究しようという意思が表れているか。
また正しい操法を身に付け、確実に技術向上しているかを評価の対象とします。
(出席90%、授業内評価10%)

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧応用操法5：ダブル・ спин 他

- ⑨応用操法 6 : パラレル・ спин 他
- ⑩応用操法 7 : コンビネーションIV
- ⑪WINTER BAND FESTIVAL へ向けて 1 (BAND FESTIVAL へのトレーニング&ミーティング)
- ⑫WINTER BAND FESTIVAL へ向けて 2 (ショーのまとめ)
- ⑬WINTER BAND FESTIVAL へ向けて 3 (照明合わせを含む総合リハーサル)
- ⑭WINTER BAND FESTIVAL 本番
- ⑮WINTER BAND FESTIVAL の反省を行います。(映像鑑賞、スタッフ反省、意見交換)

期末試験評価方法・評価基準

積極的に授業に参加し、研究しようという意思が表れているか。
またショーの作成について正しい知識を身に付けられたか、マーチングに対し広い考えを持てているか、それが発表に成果として現れたかを評価の対象とします。
(出席 90%、授業内評価 10%)

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ポップス合奏 I
担当講師名	織田浩司
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

演奏家、指揮者、指導者、プロデューサーとしての実務経験があります。
米米CLUB、BIG HORNS BEE メンバー、ブラバンディズニー指揮者。

授業内容

合奏を通してポピュラー音楽の演奏法の習得を目指します。ジャズ、ロック、ラテン等様々な音楽スタイルを理解し、表現力を身につけます。毎回、教材を使った基礎理解と合奏を行います。

毎回、新曲を取り上げ、読譜力、理解力を実践的に身につけます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ポピュラー音楽演奏の基本を学び、発表会で完成度の高い演奏をすることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス/オーメンズ・オブ・ラヴ
- ② 宝島
- ③ となりのトトロ
- ④ ディスコキッド
- ⑤ 君の瞳に恋してる
- ⑥ ミッキーマウスマーチ
- ⑦ 全曲まとめ

中間試験評価方法・評価基準

毎回の受講態度を評価します。出席、アンサンブルへの貢献度など。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ アラジンメドレー
- ⑨ スwingしなけりや意味が無い

- ⑩ イン・ザ・ムード
- ⑪ ゲッタウェイ
- ⑫ 人生のメリーゴーランド
- ⑬ キルビルのテーマ
- ⑭ ライオンキングメドレー
- ⑮ 全曲まとめ

期末試験評価方法・評価基準

毎回の受講態度を評価します。出席、アンサンブルへの貢献度など。

特記事項

曲目は前年度の例です。別の曲を取り上げることがあります。

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ポップス合奏Ⅱ
担当講師名	織田浩司
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

演奏家、指揮者、指導者、プロデューサーとしての実務経験があります。
米米CLUB、BIG HORNS BEE メンバー、ブラバンディズニー指揮者。

授業内容

合奏を通してポピュラー音楽の演奏法の習得を目指します。ジャズ、ロック、ラテン等様々な音楽スタイルを理解し、表現力を身につけます。毎回、教材を使った基礎理解と合奏を行います。

毎回、新曲を取り上げ、読譜力、理解力を実践的に身につけます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ポピュラー音楽演奏の基本を学び、発表会で完成度の高い演奏をすることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① セレブレーション
- ② すべてをあなたに
- ③ 東京ディズニーリゾートメドレー
- ④ ドラえもんJAZZ
- ⑤ DANCIN'会津磐梯山
- ⑥ デイトリッパー
- ⑦ 全曲まとめ

中間試験評価方法・評価基準

毎回の受講態度を評価します。出席、アンサンブルへの貢献度など。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ クリスマスマドレー

- ⑨ ベイシー・ストレート・アヘッド
- ⑩ チキン
- ⑪ 銀河鉄道 999
- ⑫ リトルマーメイドメドレー
- ⑬ ミシェル・ルグランメドレー
- ⑭ バードランド
- ⑮ 全曲まとめ

期末試験評価方法・評価基準

毎回の受講態度を評価します。出席、アンサンブルへの貢献度など。

特記事項

曲目は前年度の例です。別の曲を取り上げることがあります。

学科名	管絃打楽器科
科目名	合唱 I
担当講師名	山田麻由
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

大阪音楽大学卒業後、「レ・ミゼラブル」のオーディションに合格。その後もミュージカルの舞台を中心に活躍。「太平洋序曲」日本公演初演より、NY 公演&ワシントン DC 公演にも参加。

授業内容

自らの身体を「声を出す楽器」ととらえ、基本的な発声を学びつつ、ミュージカルの楽曲を用いることにより、ミュージカルについての知識を広げ、また、アンサンブル曲を歌唱することにより、音楽を表現する感性を身につけていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音楽を感じ歌える様になる事により、自分の楽器演奏にも応用出来る表現力の基礎を身につけることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 声を出す楽器である、自身の身体の仕組みと、発声方法を学びます。
- ② 「Seasons of love」を用いて、音楽を感じる事を学びます。
- ③ 「Seasons of love」を用いて、声を出してユニゾンで歌います。
- ④ 「Seasons of love」を用いて、ハーモニーを練習します。
- ⑤ 「Seasons of love」を英語歌詞で歌います。
- ⑥ 仕上げ練習をします。
- ⑦ 授業内試験を行います。歌唱パフォーマンスを試験とします。

中間試験評価方法・評価基準

授業で練習した楽曲を歌唱することを試験とします。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ディズニーミュージカルの世界観を学びます。
- ⑨ アランメンケン作曲の作品より選曲した曲を歌唱練習します。
- ⑩ アランメンケン作曲の作品より選曲した曲を歌唱練習します。
- ⑪ アランメンケン作曲の作品より選曲した曲を歌唱練習します。
- ⑫ 「Circle of Life」を用いて、歌唱練習します。
- ⑬ 「Circle of Life」を用いて、歌唱練習します。
- ⑭ 仕上げ練習をします。
- ⑮ 授業内試験を行います。歌唱パフォーマンスを試験とします

期末試験評価方法・評価基準

授業で練習した楽曲を歌唱することを試験とします。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	管絃打楽器科
科目名	合唱 II
担当講師名	山田麻由
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

大阪音楽大学卒業後、「レ・ミゼラブル」のオーディションに合格。その後もミュージカルの舞台を中心に活躍。「太平洋序曲」日本公演初演より、NY 公演&ワシントン DC 公演にも参加。

授業内容

自らの身体を「声を出す楽器」ととらえ、基本的な発声を学びつつ、ミュージカルの楽曲を用いることにより、ミュージカルについての知識を広げ、また、アンサンブル曲を歌唱することにより、音楽を表現する感性を身につけていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音楽を感じ歌える様になる事により、自分の楽器演奏にも応用出来る表現力の基礎を身につけることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① アンドリュードウェバー作曲作品の世界観を学びます。
- ② アンドリュードウェバー作曲作品より選曲した曲を歌唱練習します。
- ③ アンドリュードウェバー作曲作品より選曲した曲を歌唱練習します。
- ④ クロード＝ミシェル・シェーンベルク作曲作品の世界観を学びます。
- ⑤ クロード＝ミシェル・シェーンベルク作曲作品より選曲した曲を歌唱練習します
- ⑥ クロード＝ミシェル・シェーンベルク作曲作品より選曲した曲を歌唱練習します。
- ⑦ 授業内試験を行います。歌唱パフォーマンスを試験とします。

中間試験評価方法・評価基準

授業で練習した楽曲を歌唱することを試験とします。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ シルヴェスター・リーヴァイ作曲作品の世界観を学びます。
- ⑨ シルヴェスター・リーヴァイ作曲作品より選曲した曲を歌唱練習します。
- ⑩ シルヴェスター・リーヴァイ作曲作品より選曲した曲を歌唱練習します。
- ⑪ フランク・ワイルドホーン作曲作品の世界観を学びます。
- ⑫ フランク・ワイルドホーン作曲作品より選曲した曲を歌唱練習します。
- ⑬ フランク・ワイルドホーン作曲作品より選曲した曲を歌唱練習します。
- ⑭ 授業内試験に向けて、仕上げ練習をします。
- ⑮ 授業内試験を行います。歌唱パフォーマンスを試験とします

期末試験評価方法・評価基準

授業で練習した楽曲を歌唱することを試験とします。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ピアノ基礎技法 I
担当講師名	瀬川千穂、大導寺鍊太郎
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は数々のコンサートで、ソロや声楽や器楽の伴奏やピアノアンサンブルの実務経験を持ちます

授業内容

クラシックピアノの基礎を学びます。I クオーターではバロック時代、II クオーターでは古典派時代の曲を演習します。曲は初級から上級までの課題曲の中から自分に合ったものを選曲し、クオーター末試験で演奏します。スケールは 1 オクターブから 4 オクターブまで、各自のレベルに合わせた形で弾けるようになれば合格とし、次の調へ進みます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ピアノの基礎的な手や指の使い方（タッチ）、曲の解釈の仕方、練習方法など、授業の中で身についていきます。毎回の授業でスケールとカデンツも実習し、スケールは 1 オクターブから 4 オクターブまで、各自のレベルに合わせた形で弾けるようになれば合格とし、次の調へ進みます。

授業計画（1回目から 7回目）

- ① バロック時代 1. この時代の概要を解説し、課題曲から選曲します。
- ② バロック時代 2. バロックの曲を聴きます。課題曲とスケールのレッスンをします。
- ③ バロック時代 3. タッチや指使い、アーティキュレーションの確認をします。
- ④ バロック時代 4. 曲の構造やハーモニーについて確認します。
- ⑤ バロック時代 5. テンポや響きのバランスを整えて仕上げの目処を立てます。
- ⑥ バロック時代 6. 次週の試験に向けて課題曲とスケールを仕上げていきます。
- ⑦ クオーター末試験 これまで 6 回の授業で勉強した曲とスケールを演奏します。

中間試験評価方法・評価基準

毎回の授業にしっかりと取り組めたか、7回の授業でどれだけ進歩したかを評価します。
出席 50%、試験 50%の合計で成績を出します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 古典派時代 1. この時代の概要を解説し、課題曲から選曲します。
- ⑨ 古典派時代 2. 古典派の曲を聴きます。課題曲とスケールのレッスンをします。
- ⑩ 古典派時代 3. 古典派の曲を聴きます。曲の譜読みを進めます。
- ⑪ 古典派時代 4. タッチや指使い、アーティキュレーションの確認をします。
- ⑫ 古典派時代 5. 曲の構造やハーモニーについて確認します。
- ⑬ 古典派時代 6. テンポや響きのバランスを整えて仕上げの目処を立てます。
- ⑭ 古典派時代 7. 次週の試験に向けて課題曲とスケールを仕上げていきます。
- ⑮ クオーター末試験 これまで7回の授業で勉強した曲とスケールを演奏します。

期末試験評価方法・評価基準

毎回の授業にしっかり取り組めたか、8回の授業でどれだけ進歩したかを評価します。
出席 50%、試験 50%の合計で成績を出します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	ピアノ基礎技法 II
担当講師名	瀬川千穂、大導寺鍊太郎
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は数々のコンサートで、ソロや声楽や器楽の伴奏やピアノアンサンブルの実務経験を持ちます

授業内容

クラシックピアノの基礎を学びます。III クオーターはロマン派、IV クオーターは近現代のピアノ曲を演習します。強弱やペダルなど、ピアノらしい表情の豊かな演奏を目指して毎回のレッスンを積み重ねましょう。引き続き毎回スケールとカデンツの演習をします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ピアノの基礎的な手や指の使い方（タッチ）、曲の解釈の仕方、ペダリング、練習方法などを授業の中で身につけていきます。毎回の授業でスケールとカデンツも実習し、スケールは1オクターブから4オクターブまで、各自のレベルに合わせた形で弾けるようになれば合格とし、次の調へ進みます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ロマン派時代 1. この時代の概要を解説し、課題曲から選曲します。
- ② ロマン派時代 2. ロマン派の曲を聴きます。課題曲とスケールのレッスンをします。
- ③ ロマン派時代 3. ロマン派の曲を聴きます。曲の譜読みを進めます。
- ④ ロマン派時代 4. タッチや指使い、アーティキュレーションの確認をします。
- ⑤ ロマン派時代 5. 曲の構造やハーモニーについて確認します。
- ⑥ ロマン派時代 6. テンポや響きのバランスを整えて仕上げの目処を立てます。
- ⑦ クオーター末試験 これまで6回の授業で勉強した曲とスケールを演奏します。

中間試験評価方法・評価基準

毎回の授業にしっかりと取り組めたか、7回の授業でどれだけ進歩したかを評価します。
出席 50%、試験 50%の合計で成績を出します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 近現代のピアノ曲 1. この時代の概要を解説し、課題曲から選曲します。
- ⑨ 近現代のピアノ曲 2. 近現代の曲を聴きます。課題曲とスケールのレッスンをします。
- ⑩ 近現代のピアノ曲 3. 近現代の曲を聴きます。曲の譜読みを進めます。
- ⑪ 近現代のピアノ曲 4. タッチや指使い、アーティキュレーションの確認をします。
- ⑫ 近現代のピアノ曲 5. 曲の構造やハーモニーについて確認します。
- ⑬ 近現代のピアノ曲 6. テンポや響きのバランスを整えて仕上げの目処を立てます。
- ⑭ 近現代のピアノ曲 7. 次週の試験に向けて課題曲とスケールを仕上げていきます。
- ⑮ クオーター末試験 これまで 7 回の授業で勉強した曲とスケールを演奏します。

期末試験評価方法・評価基準

毎回の授業にしっかりと取り組めたか、8回の授業でどれだけ進歩したかを評価します。
出席 50%、試験 50%の合計で成績を出します。

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	プレゼンテーションⅠ
担当講師名	大山智、高梨裕久
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

授業内容

社会に出るために必要な能力、知識の習得を目指し、学習します。
また、演奏においても通常の授業から学んだことをどう活かしていくかを学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分の考えを効果的に伝えることが出来るようになる。
授業（知識）を演奏が結びつくようになる

授業計画（1回目から7回目）

- ① 授業概要の説明
- ② 目標設定
- ③ 社会人教育① ルール、モラルについて
- ④ 社会人教育② しつけ（挨拶、マナー）について
- ⑤ 社会人教育③ 知識（税、年金、保険）について
- ⑥ 社会人教育④ スケジュール管理について
- ⑦ レポート レポート提出

中間試験評価方法・評価基準

出席率、授業への取り組み姿勢に重点を置きます。
出席率 60%、平常点 20%、試験 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 目標設定
- ⑨ 専攻力① 技術力について
- ⑩ 専攻力② 表現力について

- ⑪ 専攻力③ 応用力について
- ⑫ 専攻リテラシー ソルフェージュの応用について
- ⑬ 専攻知識 音楽史の理解
- ⑭ 実技試験へ向けて 春学期末の実技試験に向けての取り組む姿勢を考える
- ⑮ レポート レポート提出

期末試験評価方法・評価基準

出席率、授業への取り組み姿勢に重点を置きます。

出席率 60%、平常点 20%、試験 20%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	プレゼンテーションⅡ
担当講師名	大山智、高梨裕久
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

授業内容

社会に出るために必要な能力、知識の習得を目指し、学習します。
また、演奏においても通常の授業から学んだことをどう活かしていくかを学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分の考えを効果的に伝えることが出来るようになる。
授業（知識）を演奏が結びつくようになる

授業計画（1回目から7回目）

- ① 授業概要の説明
- ② 目標設定
- ③ 社会人教育① ネットリテラシーについて
- ④ 社会人教育② ネットリテラシーについて
- ⑤ 社会人教育③ プロフィール作成
- ⑥ 社会人教育④ 履歴書指導、就職活動について
- ⑦ レポート レポート提出

中間試験評価方法・評価基準

出席率、授業への取り組み姿勢に重点を置きます。
出席率 60%、平常点 20%、試験 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 目標設定
- ⑨ 自分を知る① 音楽における能力の自己分析（長所について）
- ⑩ 自分を知る② 音楽における能力の自己分析（短所について）

- ⑪ 自分を知る③ 長所と短所のバランスについて
- ⑫ 自分を知る④ 能力をどう伸ばしていくか考える
- ⑬ 自分を知る⑤ 自己分析を音楽にどう活かすか考える
- ⑭ 実技試験へ向けて 秋学期末の実技試験に向けての取り組む姿勢を考える
- ⑮ レポート レポート提出

期末試験評価方法・評価基準

出席率、授業への取り組み姿勢に重点を置きます。

出席率 60%、平常点 20%、試験 20%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	コンピュータリテラシー I
担当講師名	笠原 康弘
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

コンピュータ・ミュージック専用データ販売、及びコンピュータ・デザイン会社にミュージックプロデューサーとして 3 年程勤務。数百曲のデータ作りを担当。マイクロソフト社・日立等の映像素材制作の経験を持ちます。

授業内容

Microsoft office specialist の受検を前提とした エクセル、ワードのスキルアップを目指します。1クオーターでは、WORD、2クオーターでエクセルの基本的コマンドを覚えます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

エクセル、ワードの基本をテキストに沿って理解していきます。既に中学、高校で習っている事柄もありますが、復習を兼ねてより完全に把握するという意味で学習します。

授業計画（1回目から 7回目）

- ① コンテンツの作成
- ② コンテンツの作成 2
- ③ 書式設定 1
- ④ 書式設定 2
- ⑤ コンテンツの整理
- ⑥ コンテンツの整理 2
- ⑦ 小テストを行います。

中間試験評価方法・評価基準

出席率を重視します。その他授業への取り組み方などが評価対象です。
出席：50% 平常点：30% 試験：20%

授業計画（8回目から 15回目）

- ⑧ データとコンテンツの作成
- ⑨ データとコンテンツの作成 2
- ⑩ 書式設定 1
- ⑪ 書式設定 2
- ⑫ ブックの管理
- ⑬ ブックの管理 2
- ⑭ データの分析
- ⑮ テストを行います。

期末試験評価方法・評価基準

出席率を重視します。その他授業への取り組み方などが評価対象です。
出席：50% 平常点：30% 試験：20%

特記事項

学科名	管弦打楽器学科
科目名	コンピュータリテラシーII
担当講師名	笠原 康弘
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

コンピュータ・ミュージック専用データ販売、及びコンピュータ・デザイン会社にミュージックプロデューサーとして3年程勤務。数百曲のデータ作りを担当。マイクロソフト社・日立等の映像素材制作の経験を持ちます。

授業内容

コンピュータ、シーケンサーの基本操作を学び、ミュージシャンの自己表現ツールとしての活用を目指す。アプリケーションの基本的操作技術を習得し、音楽活動に幅広さや時間短縮など様々な面でプラスアルファにするための講義。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

上記授業内容イコール到達目標ですが、ソフトウェアのコマンドだけを覚えて良い音楽にはならないため、コンピュータと音楽の総合的な知識も同時にレベルアップしていくための講義を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① VSTi の使用方法
- ② VSTi の使用方法 2
- ③ プラグインについて、その他の音源の使用
- ④ オーディオ、MIDI トラックのミックスダウン
- ⑤ オリジナル楽曲を制作します。
- ⑥ オリジナル楽曲を制作します。
- ⑦ 最終データを提出します。

中間試験評価方法・評価基準

出席率を重視します。その他授業への取り組み方などが評価対象です。
出席：50% 平常点：30% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 様々なエフェクターについての解説と使用法。
- ⑨ 様々なエフェクターについての解説と使用法。
- ⑩ 和声、理論の観点から見たアレンジング
- ⑪ ブラスのソリ
- ⑫ トランスポーズ機能を使用したボイシングの方法
- ⑬ 各種シュミレーションテクニックを使用して、自由曲を制作します。
- ⑭ 各種シュミレーションテクニックを使用して、自由曲を制作します。
- ⑮ 最終データを提出します。

期末試験評価方法・評価基準

出席率を重視します。その他授業への取り組み方などが評価対象です。
出席：50% 平常点：30% 試験：20%

特記事項